



Print Pro Server 2.0

ユーザーズマニュアル

■ はじめに

このたびは弊社製品PrintPro Server 2.0をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。
(以下、「PrintPro Server 2.0」を「本製品」と呼び、ご説明して参ります)

本製品は、サーバー系Windows OS上で動作する帳票印刷システムです。プリンターの監視を行いながら、確実な印刷出力を行うと共に、印刷ジョブを管理し、プレビュー表示、ページ指定再印刷を行うことができます。PrintPro for Designer(別売)により、あらかじめ設計されたフォームにデータをマージし、表現力豊かな帳票を印刷することができます。PrintPro for PDF Option(別売)を使用することにより、PDFファイルへの出力も可能です。

※フォームの作成・編集には「PrintPro for Designer」(別売)を使用します。

※PDFファイルへ出力する場合、バージョン2.11以降の「PrintPro for PDF Option」(別売)が必要です。

本書は、基本的な操作方法、注意点などについて記載しております。ご使用の際にお読みください。

なお、表示画面などは操作の一例として掲載しているものです。お客様のご使用環境によっては、画面に表示される内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

■ 著作権／ご注意

- ・本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・本書の内容の一部または全部を無断で複製転載することを禁じます。
- ・本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。



※PrintProは、JBCCホールディングス株式会社の登録商標です。

※Microsoft、Windowsは、米国マイクロソフト社の登録商標です。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

Copyright (C) 2014 JB Advanced Technology Corp. All Rights Reserved.

■ 本書の表記方法について

	ハードウェアやソフトウェアの損害やエラーの発生を防止するために、必ず守っていただきたい情報を記載しています。
	特定のテーマに関する補足情報を記載しています。
メニュー、アイコン、ボタン、ウィンドウ、タブ	[]で囲んで表記します。 (例)[OK]ボタンをクリックします。
キーボード上のキー	<>で囲んで表記します。 (例)キーボードの<Tab>キーを押します。
参照先	章、節、項は『』、見出しは「」で囲んで表記します。 (例)『2章 1 ログインとログアウト』(P8)を参照してください。

目次

はじめに	i
第1章 ご使用になる前に.....	1
1.1 ご注意	2
1.2 お問い合わせについて	3
第2章 PrintPro Server 2.0の概要	4
2.1 構成	5
2.2 各部の機能と使用	6
第3章 使用方法	9
3.1 プリンターポート	10
3.1.1 データ転送に関する設定画面と操作方法	11
3.1.2 ステータス取得に関する設定画面と操作方法	14
3.1.3 APTi Print Job Monitor Port の作成手順	16
3.1.4 APTi Print Job Monitor Port の設定手順	18
3.1.5 注意事項	19
3.2 システムの起動・停止コンソール	20
3.2.1 システムの起動・停止コンソールの画面と操作方法	20
3.3 管理コンソール	22
3.3.1 管理コンソールの画面と操作方法	22
3.4 プレビュー	30
3.4.1 プレビュー画面と操作方法	30
3.5 再印刷	32
3.5.1 再印刷(プリンター出力)の設定画面と操作方法	32
3.5.2 再印刷(PDF出力)の設定画面と操作方法	34
3.6 プリンターとプリンターオプションの設定	35
3.6.1 登録プリンターの設定画面と操作方法	35
3.6.2 プリンターオプションの設定画面と操作方法	38
3.7 論理プリンターの設定	41
3.7.1 論理プリンターの設定画面と操作方法	41
3.8 ファイル監視設定	43
3.8.1 ファイル監視の設定画面と操作方法	43
3.8.2 ファイルタイプの設定画面と操作方法	47
3.8.3 共通設定画面と操作方法	56
3.8.4 出力先/オプション指定画面と操作方法	58
3.8.5 出力先制御設定画面と操作方法	60
3.8.6 ジョブの登録と削除の設定画面と操作方法	62
3.8.7 空白ページ追加設定画面と操作方法	64
3.8.8 PDFファイル名設定画面と操作方法	65
3.9 環境設定	69
3.9.1 環境設定画面と操作方法	69
3.10 ターミナルサービス環境下でのご利用	73
3.11 排紙完了ステータスの取得	74

3. 12	64ビット環境での動作について	75
3. 13	設定のエクスポート/インポートツール	76
3. 13. 1	エクスポート.....	77
3. 13. 2	インポート.....	80
3. 14	ログ出力.....	84
3. 15	API.....	89
	CompPgfsJobr	92
	InitPgfsJobr.....	93
	GetJobData	94
	PrintProJobControl	95

第 1 章

ご使用になる前に

1.1 ご注意

- サーバー側プログラムの実行には管理者権限が必要です。
- クラスターサービス環境下での動作には対応していません。
- 保存されているジョブは最大で50000ジョブ程度になるように、ジョブの削除設定をおこなってください。保存されているジョブが大量になると、本製品に負荷がかかり動作に影響を与える場合があります。
- システムの起動と停止は、スタートメニューの[システムの起動・停止]からのみ行ってください。エクスプローラーやタスクマネージャーなどを使用して直接EXEファイルを操作しないでください。
- 本製品でご使用いただけるプリンターは、TCP/IPネットワークに接続されている必要があります。また、SNMP Host Resource MIBのプリンターデバイスに対応していないプリンターや、または外付けタイプのプリンターサーバーの監視/管理をすることはできません。
- 本製品により、プリンタステータスの監視、印刷ジョブ管理を行うために、プリンタードライバーのポートを“APTi Print Job Monitor Port”に接続する必要があります。“Standard TCP/IP Port”など、他のポートに接続されたプリンターは、管理することができません。
- “プリンタに直接データを送る”の設定を、本製品の監視対象となるプリンターにおこなわないでください。
- 問題が発生しない限り“APTi Print Job Monitor Port”に接続されたプリンターの印刷ジョブへの操作は、Windowsスプーラーから行わないでください。“Standard TCP/IP Port”など他のポートに接続されたプリンターの印刷ジョブへの操作は、Windowsのスプーラーを操作し、おこなってください。
- “APTi Print Job Monitor Port”をご使用の場合、ドライバープロパティによるテスト印刷をおこなうことはできません。
- ポートの追加・変更やプリンターの追加・変更など、プリンターシステムの設定を変更する場合には、本製品の動作を一旦停止してからおこなってください。
- 本製品で表示できるプリンタステータスは、プリンターメーカー、プリンターの機種により異なります。事前にご使用可能か、ご確認ください。
- サーバー側のプログラムは、TCPポートの7326番を使用します。このポートが使用できない場合、[クライアント管理コンソール]を使用することはできません。
- サーバー側の管理コンソール、および“クライアント管理コンソール”とも、同一PC上で複数の管理コンソールを起動しないでください。
- ネットワークドライブに割り当てをしたフォルダーを監視する場合は、監視方法にポーリングを指定することを推奨します。
- 本製品の一部、または全部を無断で複製することはできません。
- 本製品を運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の内容については、改良等のため、予告なく変更することがあります。

1. 2 お問い合わせについて

ユーザーズマニュアルに記述されていない事柄、または異常な動作などについては、お問い合わせください。なお、弊社ではプログラミング技法などの、弊社が販売する製品に関する内容以外のご質問にはお答えいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせになる前に

お問い合わせをいただく際に、下記の情報をご用意ください。

1. お客様情報、製品情報
 - 1) お名前、お電話番号
 - 2) 製品のシリアル番号
 - 3) 製品のバージョン

2. ご使用環境
 - 1) Server、PC、プリンターなどのハードウェア環境
 - 2) OS、開発言語などのソフトウェア環境

3. ご質問の内容
 - 1) 問題の現象
 - 2) 問題の再現方法
 - 3) 問題を再現できるサンプルコードなど

第 2 章

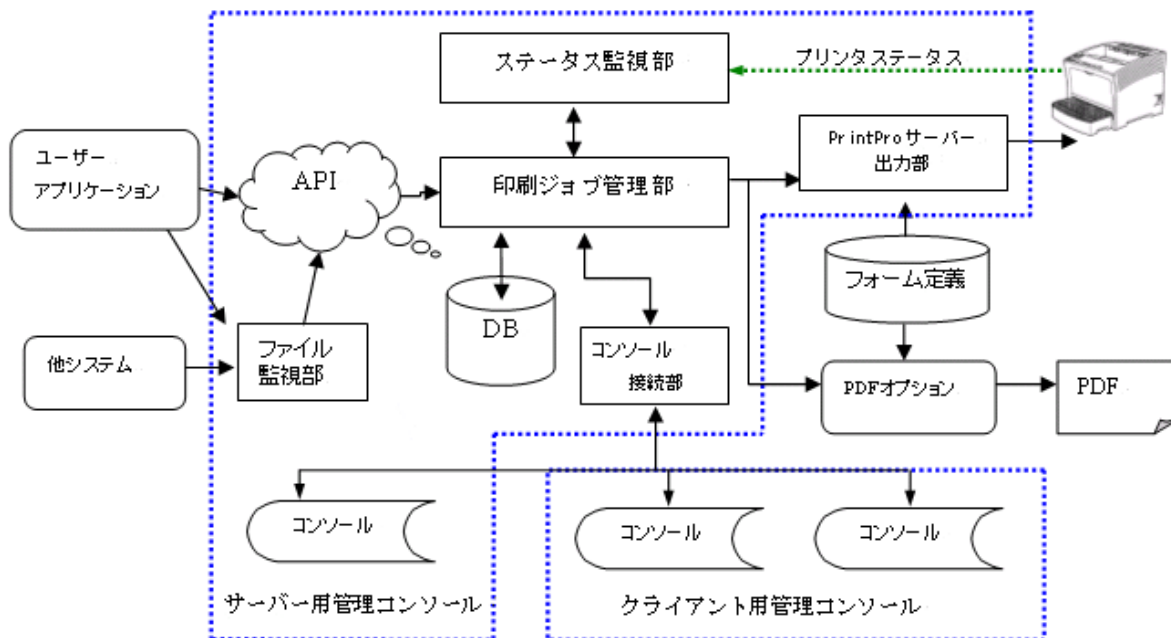
PrintPro Server 2.0の概要

2.1 構成

本製品は、

フォルダー監視部	フォルダーヘデータファイルの到着がないか監視をおこなう
ステータス監視部	プリンターのステータスを取得する
コンソール接続部	管理コンソールからの接続を受け付け、ジョブ管理を可能とする
管理コンソール	印刷ジョブの表示・操作をおこなう
印刷ジョブ管理部	印刷ジョブの管理する
PrintProサーバー出力部	PrintProオーバーレイ印刷をおこなう

から構成されます。



2.2 各部の機能と使用

フォルダー監視部

指定されたフォルダーに対するデータファイルの投入を監視します。ファイルが投入/書き込まれると、そのファイル名をもとに、あらかじめ設定・登録された内容と照合して印刷条件を決定し、印刷ジョブ管理部を通じて印刷ジョブの登録を行います。本文中では、ファイル監視、とも表記します。

印刷条件を関連付けるファイル名のことを“ファイルタイプ”とよび、登録可能なファイルタイプの最大数は、全フォルダーあわせて 10000 です。



具体的なファイルタイプに関する設定方法は『3.8 - ファイル監視設定』をご覧ください。

監視可能フォルダー数	20
1フォルダーあたりの定義可能ファイルタイプ数	500

ステータス監視部

プリンターの状態を監視し、その状態を取得する部分です。取得されたステータスは、管理コンソール画面上に表示されます。プリンターを監視対象に加えるには“APTi Print Job Monitor Port”と呼ばれるポートを作成・関連付けた上で、本製品に登録する必要があります。



具体的なポートの作成方法や、プリンターの登録方法、ステータスの内容については、『第3章 使用方法』をご覧ください。

監視可能プリンター	TCP/IPネットワークに直結された、SNMP Host Resource MIBのプリンターデバイス対応プリンター。 かつ、LPRプロトコル、またはRAWプロトコルに対応していること。
監視可能プリンター数	50台
監視可能ステータス	オンライン オフライン 用紙切れ エラー 電源オフ

コンソール接続部

管理コンソールの接続をサポートする部分です。TCP/IPネットワーク上での接続をサポートします。本部分はポート番号7326を使用して接続を行います。同時に接続可能なクライアント管理コンソール数は、5です。サーバー側の管理コンソールは、この数に含まれません。

接続方式	TCP/IP 7326番ポート (※注意 1)
接続可能コンソール 最大数	5 (※注意 2)



1. 7326番ポートが開いていない場合、管理コンソールを接続することはできません。
2. サーバー側の管理コンソールは、この数に含まれません。

管理コンソール(サーバー用/クライアント用)

現在の印刷ジョブの状況やプリンターの状況を、確認・操作するための画面です。起動するとコンソール接続部に接続し、情報の通信をおこないます。

管理コンソールには、サーバー側で動作するサーバー用管理コンソールと、クライアント側で動作するクライアント用コンソールの2種類が存在します。各コンソールで操作できる内容は以下のとおりです。

	サーバー側管理コンソール	クライアント側管理コンソール
プリンタステータス表示	○	○
ジョブ情報表示 (未印刷/印刷済/保留)	○	○
ジョブ操作 (プレビュー/ページ指定再印刷/ 削除/印刷中止)	○	○
設定1 (削除条件/監視間隔)	○	×
設定2 (監視フォルダー・ファイルタイプ 設定/論理プリンター登録)	○	×
ロギング	○	×



具体的な管理コンソールの使い方については、こちら『第3章 使用方法』をご覧ください。

印刷ジョブ管理部

印刷ジョブの登録や削除、履歴などを管理します。管理情報はコンソール接続部を通じて、管理コンソールに送られます。



具体的な管理コンソールの使い方については、『第3章 使用方法』をご覧ください。

PrintProサーバー出力部

印刷ジョブを、その内容に基づき、実際のプリンター用印刷データに変換する部分です。

第 3 章

使用方法

3.1 プリンターポート

本製品により、プリンターステータスの監視、印刷ジョブ管理を行うために、プリンターキューのポートを“APTi Print Job Monitor Port”に接続する必要があります。

以下に、

“APTi Print Job Monitor Port”の設定内容

“APTi Print Job Monitor Port”の作成手順

“APTi Print Job Monitor Port”の設定手順

について説明します。

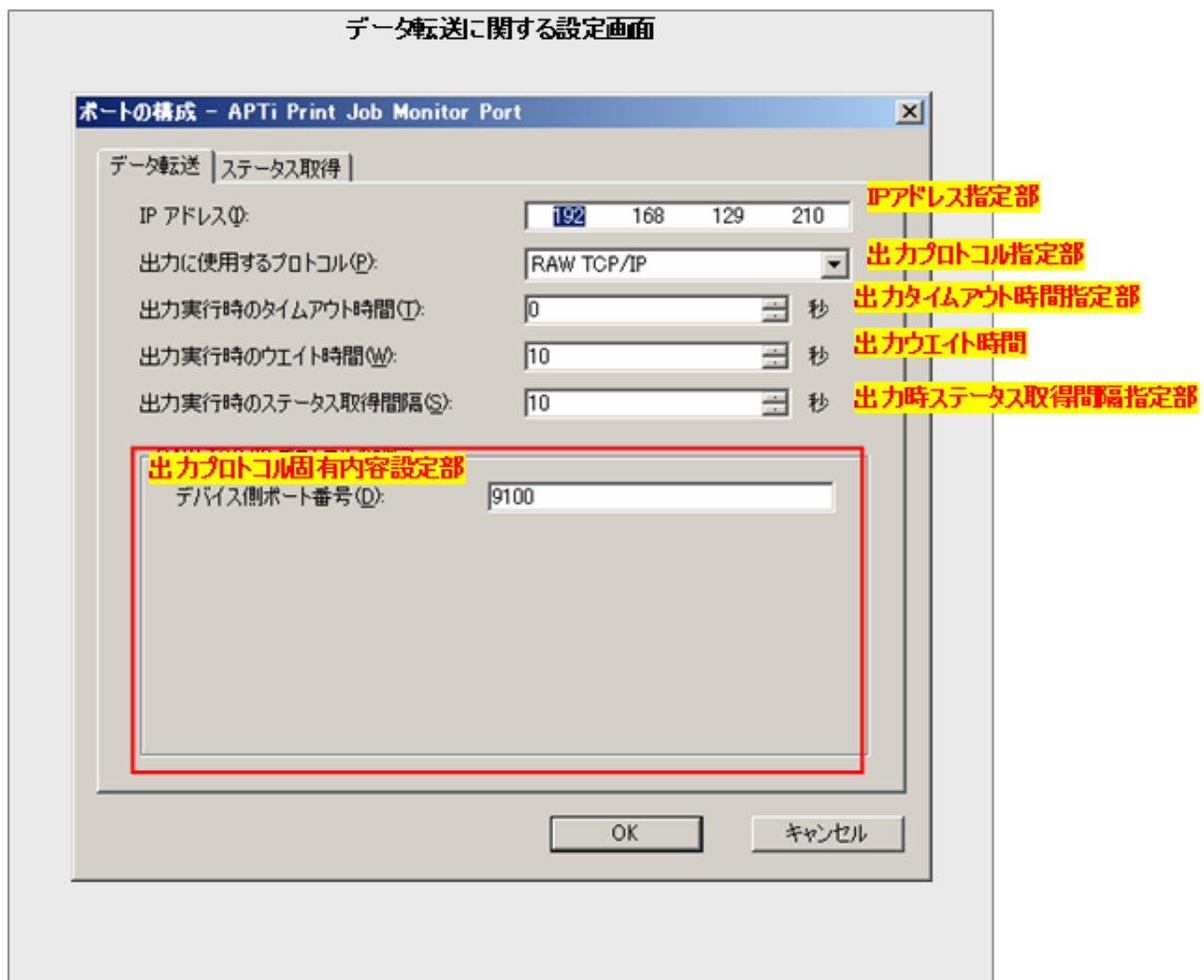
なお、スクリーンショットおよび文字表記には、Windows Server 2003のものを用いています。他OSの場合は適宜お読み替えてください。

APTi Print Job Monitor Port の設定内容は、データの転送に関するものと、ステータスの取得に関するものに分かれ、それぞれに分類された設定画面を持ちます。



APTi Print Job Monitor Portを使用しなくても印刷はおこえますが、その場合、プリンターステータスの監視はおこなえません。

3.1.1 データ転送に関する設定画面と操作方法



IPアドレス指定部

このポートが接続する、プリンターのIPアドレスを指定します。

出力プロトコル指定部

出力のためのデータ転送時に、使用するプロトコルを指定します。

以下の内容から選択可能です。

"RAW TCP/IP"	Raw TCP/IPでデータ転送します。
"LPR"	LPRでデータ転送します。

出力タイムアウト時間指定部

本ポートは、出力のためのデータ転送時、要求に対してプリンターの応答がない場合、リトライ処理を繰り返しおこないません。

そのリトライ処理をつづける時間を指定します。

この時間内の全てのリトライ処理が失敗した場合、データ転送は中断・失敗します。

指定は秒単位で、

0 ~ 86400秒(24時間)

の範囲で指定可能です。初期値は0。

0を指定した場合、タイムアウトは発生せず、送信できるまでリトライを繰り返します。

出力ウェイト時間指定部

本ポートは、出力のためのデータ転送時、要求に対してプリンターの応答がない場合、リトライ処理を繰り返しおこないません。

その、“プリンターの応答がない”と判断するための待ち時間を指定します。

ある要求に対して、この時間内にプリンターの応答が得られない場合、そのプリンターは応答なし、とみなされ、リトライ処理がおこなわれます。

指定は秒単位で、

5 ~ 3600秒(1時間)

の範囲で指定可能です。初期値は10。

出力時ステータス取得間隔指定部

出力のためのデータ転送時の、プリンターステータス取得のための間隔を指定します。

この設定が対象としている処理により取得されるステータスは、内部的に使用されます。

通常、初期値から変更の必要性はありません。

指定は秒単位で、

5 ~ 3600秒(1時間)

の範囲で指定可能です。初期値は10。

出力プロトコル固有内容設定部

出力プロトコル指定部で指定されたプロトコルに固有の設定内容が表示されます。
以下に、プロトコル毎の設定内容を記述します。

RAW TCP/IP

デバイス側ポート番号

LPR

デバイス側ポート番号

キュー名

PC側のポート番号に721番から731番のみを使用するか否か

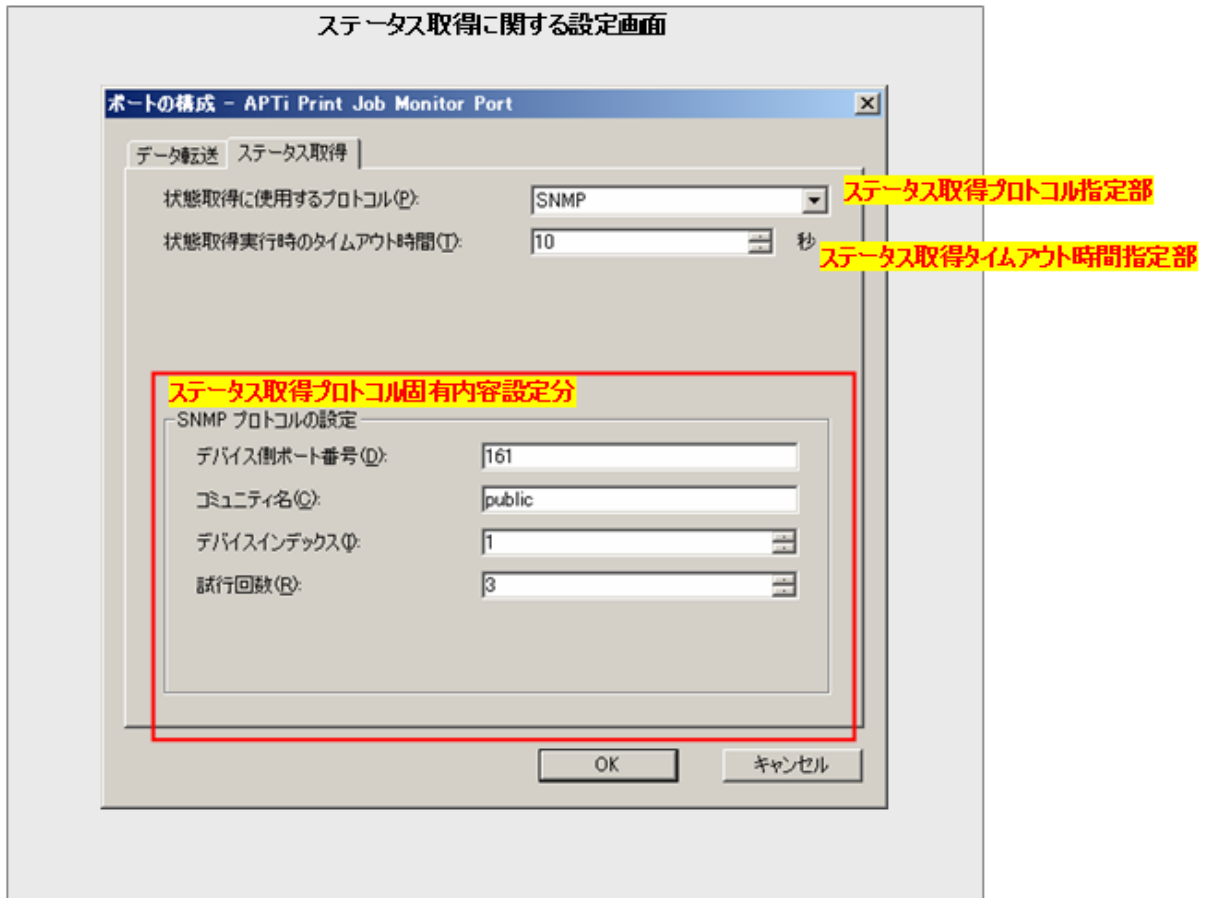
OKボタン

本設定内容を保存し、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定内容を保存せず破棄し、画面を閉じます。

3.1.2 ステータス取得に関する設定画面と操作方法



ステータス取得プロトコル指定部

ステータス取得に使用するプロトコルを指定します。

以下の内容から選択可能です。

"SNMP"	SNMPによりステータスを取得します。
"Ricoh PMAPI"	Ricoh PMAPIによりステータスを取得します。 SNMPの場合と同様のステータスに加えて、プリンター上での排紙の完了のステータスが取得できます。 本プロトコルと、本プロトコルサポートプリンターを組み合わせると、管理コンソール上で、排紙の完了まで確認することができます。 なお、本プロトコル設定での使用には、本システムと同じPCに、Ricoh ソフトウェア "Ridoc IO Navi" がインストールされている必要があります。

本システムがサポートする、Ricoh PMAPIサポートプリンターは以下のとおりです。

Ricoh製品
Ricoh ソフトウェア "Ridoc IO Navi" がサポートする機種。
同ソフトウェアがサポートする機種については、Ricoh様ホームページ(<http://www.ricoh.co.jp/>)にてご確認ください。



- ・“Ricoh PMAPI” プロトコルを、上記サポート機種以外に対して設定しないでください。正しく動作しなくなります。
- ・“Ricoh PMAPI”プロトコルの使用には、本システムと同じPCに、Ricoh ソフトウェア “Ridoc IO Navi”がインストールされている必要があります。

ステータス取得タイムアウト時間指定部

対象プリンターの応答を得るための最大待ち時間を指定します。

指定は秒単位で、

1 ~ 1800秒(30分)

の範囲で指定可能です。初期値は10。

ステータス取得プロトコル固有内容設定部

ステータス取得プロトコル指定部で指定されたプロトコルに固有の設定内容が表示されます。

以下に、プロトコル毎の設定内容を記述します。

SNMP

デバイス側ポート番号
コミュニティ名
デバイスインデックス

Ricoh PMAPI

固有の設定はありません。




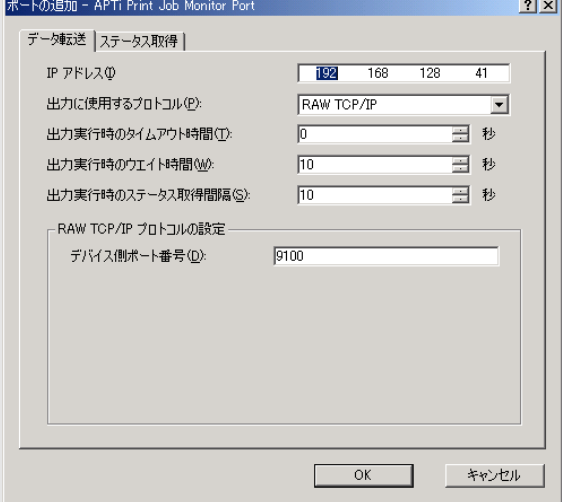
OKボタン

本設定内容を保存し、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定内容を保存せず破棄し、画面を閉じます。

3. 1. 3 APTi Print Job Monitor Port の作成手順

APTi Print Job Monitor Port の作成手順		
1	APTi Print Job Monitor Port 関連付けたいプリンターの、ポート設定画面を開きます。 [ポートの追加] ボタンをクリックします。	
2	ポートの種類の選択画面が表示されます。 "APTi Print Job Monitor Port" を選択し、[新しいポート] ボタンをクリックします。	
3	ポート名の入力画面が表示されます。 ポート名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。	
4	ポートの設定のための画面が表示されます。 [データ転送] タブ をクリックし、データ転送に関する設定画面を表示します。 『3.1.1 データ転送に関する設定画面と操作方法』を参照し、設定をおこないます。	

APTi Print Job Monitor Port の作成手順

- 5 “ステータスの取得”タブをクリックし、ステータス取得に関する設定画面を表示します。
『3.1.2 ステータス取得に関する設定画面と操作方法』を参照し、設定をおこないます。

設定が完了したら [OK]ボタン をクリックして終了です。

ポートの追加 - APTi Print Job Monitor Port

データ転送 | ステータス取得

状態取得に使用するプロトコル(Q): SNMP

状態取得実行時のタイムアウト時間(Q): 10 秒

SNMP プロトコルの設定


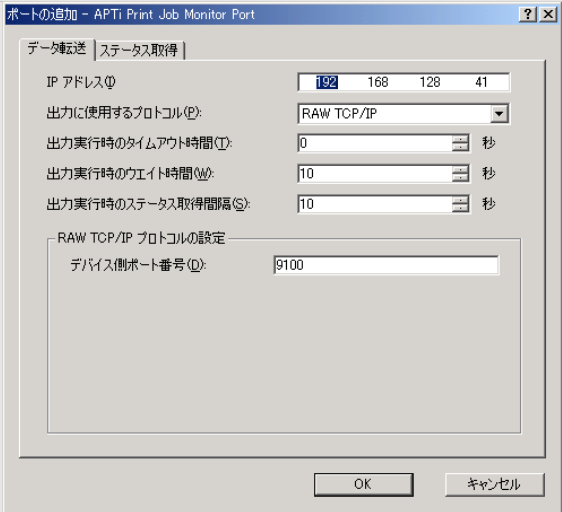
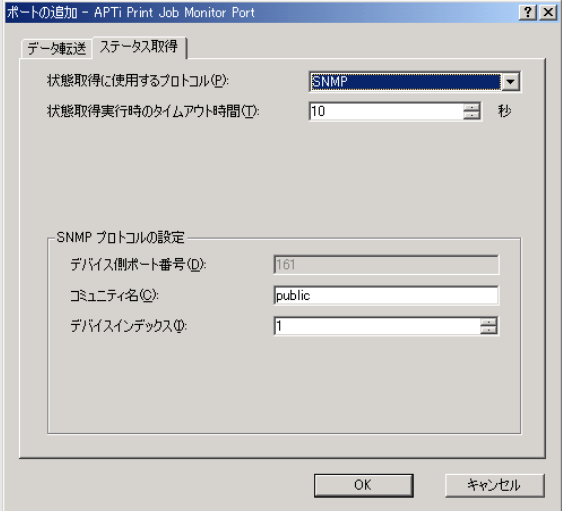
デバイス側ポート番号(Q): 161

コミュニティ名(Q): public

デバイスインデックス(Q): 1

OK キャンセル

3. 1. 4 APTi Print Job Monitor Port の設定手順

APTi Print Job Monitor Port の設定手順	
<p>1 設定したいAPTi Print Job Monitor Port が関連付けられたプリンターの、ポート設定画面を開きます。</p> <p>設定したい、“APTi Print Job Monitor Port”を選択し、[ポートの構成]ボタン をクリックします。</p>	
<p>2 ポートの設定のための画面が表示されます。 [データ転送]タブ をクリックし、データ転送に関する設定画面を表示します。 3.1.1 データ転送に関する設定画面と操作方法』を参照し、設定をおこないます。</p>	
<p>3 [ステータスの取得]タブ をクリックし、ステータス取得に関する設定画面を表示します。 『3.1.2 ステータス取得に関する設定画面と操作方法』を参照し、設定をおこないます。</p> <p>設定が完了したら [OK]ボタン をクリックして終了です。</p>	

3. 1. 5 注意事項

- “APTi Print Job Monitor Port”以外のポートに接続されたプリンターを、本システムで管理することはできません。
- 問題が発生しない限り“APTi Print Job Monitor Port”に接続されたプリンターの印刷ジョブへの操作は、Windowsスプーラーからおこなわないでください。
- “APTi Print Job Monitor Port”をご使用の場合、ドライバープロパティによるテスト印刷を含め、他のアプリケーションから印刷をおこなうことはできません。
- ポートの追加・変更やプリンターの追加・変更など、プリンターシステムの設定を変更する場合には、本製品の動作を一旦停止してからおこなってください。

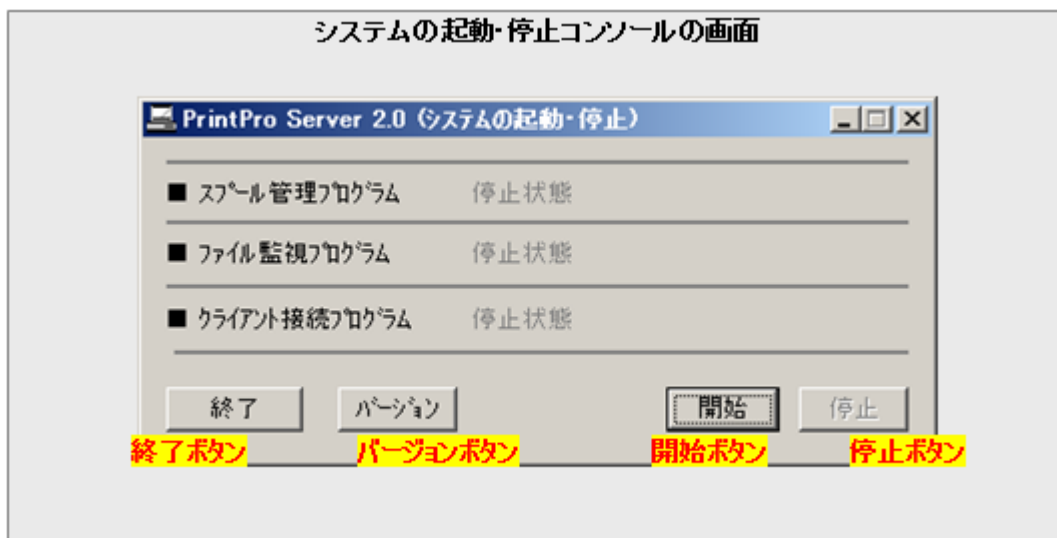
3.2 システムの起動・停止コンソール

本製品の起動および停止は、[システムの起動・停止]コンソールからおこないます。

[システムの起動・停止]コンソールでは、本製品の起動や、停止、およびバージョンの確認がおこなえます。

3.2.1 システムの起動・停止コンソールの画面と操作方法

[システムの起動・停止]コンソールの表示は、Windows スタートメニューから[プログラム] - [PrintPro Server 2.0] - [システムの起動・停止]の選択によっておこないます。



終了ボタン

このコンソールを終了します。

なお、システムの動作中に本ボタンをクリックした場合、システムは自動的に停止します。

バージョンボタン

本システムのバージョン情報画面を表示します。



(実際の表示内容は製品のバージョンにより異なります)

開始ボタン

本システムを起動します。

停止ボタン

本システムを停止します。



起動・停止コンソール (pgfsjobm.exe) に “/a” オプションをつけて実行すると、起動・停止コンソールが立ち上がった後、自動でシステムが起動します。

Windowsのスタートアップ処理などと組み合わせて、Windowsの起動にあわせて自動起動させることも可能です。

(※ただしWindowsのバージョンや設定によってはWindowsのユーザーアカウント制御機能により、ユーザー操作が必要となる場合があります)

ファイルメニュー

管理コンソールと、サーバーの接続や切断、管理コンソールの終了メニューを提供します。



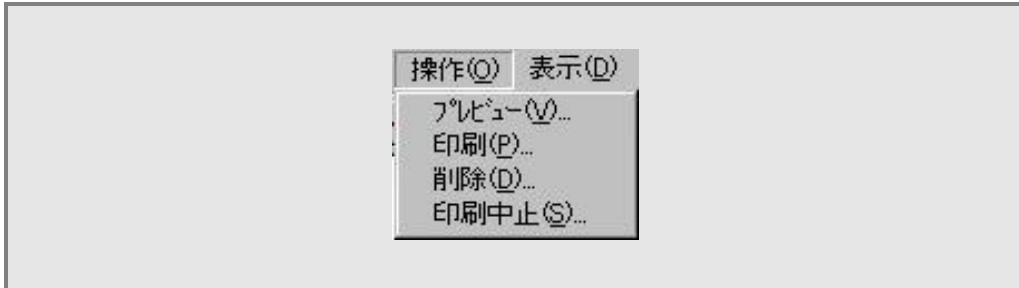
“サーバー接続”	<p>本製品システムに接続します。接続はTCP/IPにて行われ、サーバー側7326番のポートにて接続がおこなわれます。サーバー側で本製品のシステムが起動してない場合は接続に失敗します。</p> <p>クライアント用管理コンソールでは、サーバー接続指定ダイアログボックスが表示されますので、更にサーバーのIPアドレスを指定し、接続します。</p>
“サーバー切断”	システムと接続状態にあるとき、接続を切断します。
“終了”	管理コンソールを終了します。



7326番ポートが開いていない場合、管理コンソールを接続することはできません。

操作メニュー

ジョブの操作に関するメニューを提供します。

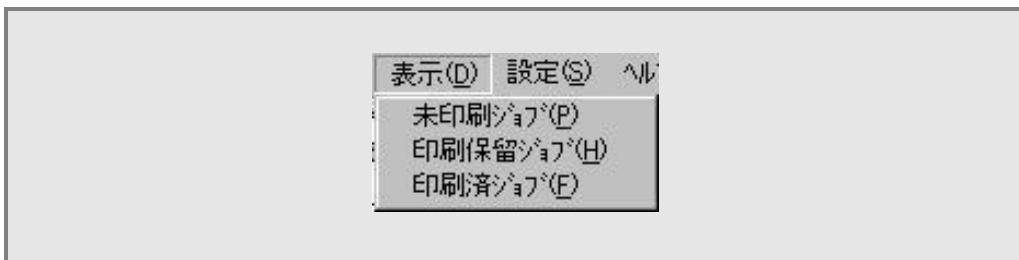


操作の対象となるジョブは、ジョブ情報表示部で、選択状態にあるジョブです。

“プレビュー”	選択されているジョブの出力プレビューを表示します。
“印刷”	選択されている、保留または印刷済みジョブの、印刷を実行します。 本メニューを選択すると再印刷の設定画面が表示され、同画面上の印刷ボタンを押すことで印刷がおこなわれます。
“削除”	選択されているジョブを削除します。なお、印刷中のジョブを削除することはできません。
“印刷中止”	選択されている、印刷中のジョブの、印刷を中止します。

表示メニュー

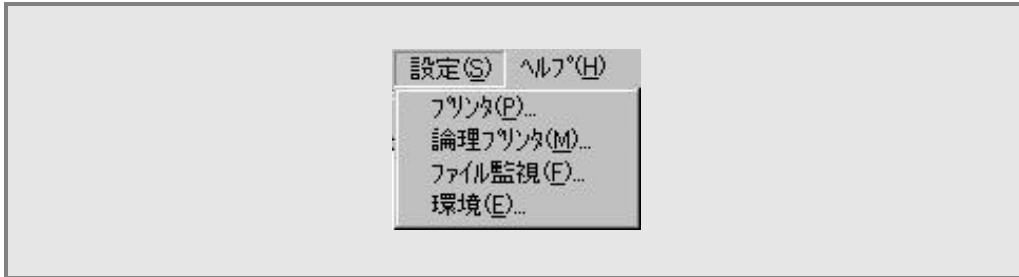
ジョブ情報表示部の、表示されるジョブの内容を切り替えます。



“未印刷ジョブ”	印刷指示がされているが、まだ印刷が完了していない、印刷待ち、または印刷中状態にあるジョブのみを表示します。 なお、印刷処理中にエラーを生じたジョブも、“未印刷ジョブ”として表示されます。
“印刷保留ジョブ”	印刷指示がおこなわれていない、保留状態にあるジョブのみを表示します。
“印刷済ジョブ”	印刷処理が完了したジョブのみを表示します。

設定メニュー

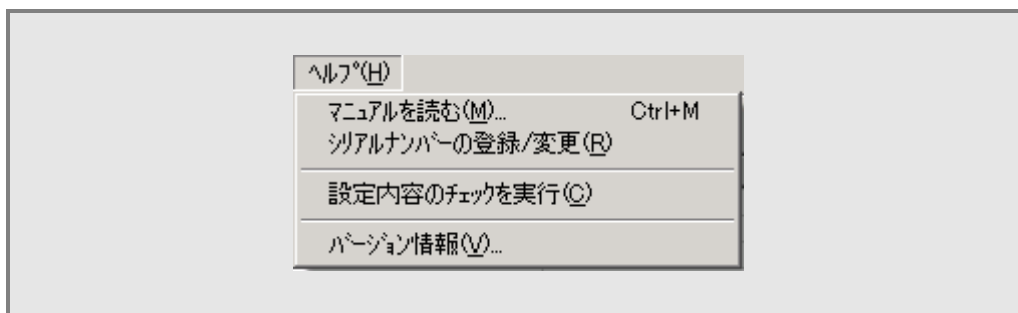
本システムの設定に関するメニューを提供します。



"プリンタ"	システムが利用するプリンターの登録/設定をおこないます。
"論理プリンタ"	システムが利用する論理プリンターを登録/設定をおこないます。
"ファイル監視"	システムがおこなうファイル監視の設定をおこないます。
"環境"	上記以外の、システムが利用する環境の設定をおこないます。 ジョブの削除時間、プリンターの監視間隔、論理プリンターの使用の有無などです。

ヘルプメニュー

バージョン情報の表示メニューを提供します。



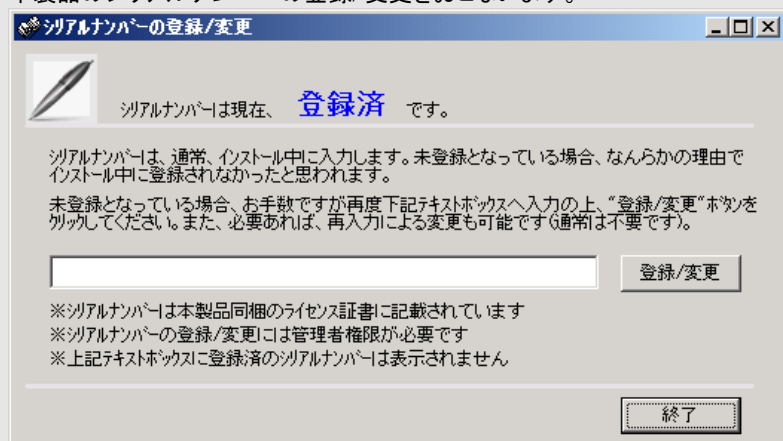
“マニュアルを読む”	本製品のユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。
------------	-----------------------------



ユーザーズマニュアルの表示にはインターネット接続可能環境が必要となります。

“シリアルナンバーの登録/変更”

本製品のシリアルナンバーの登録/変更をおこないます。



シリアルナンバーの登録/変更は、必要時のみおこなうようにして下さい。また、シリアルナンバー入力の際は、誤字脱字のないよう、ご注意ください。誤ったシリアルナンバーを登録すると、本製品が正常に動作しなくなる場合があります。

“設定内容のチェックを実行”

設定内容をチェックし、結果を表示します。

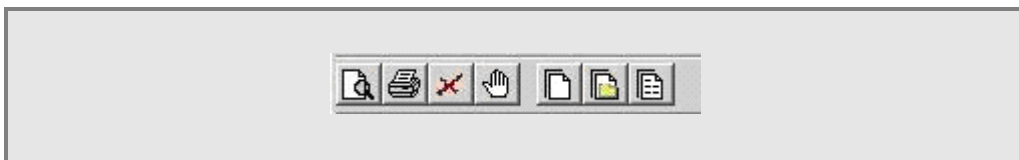
“バージョン情報”

バージョンに関する情報を表示します。
システム自体のバージョン情報と、この管理コンソールのバージョン情報を表示します。



ショートカットボタン部

ショートカットボタン部は、全て、メニューの項目に対するショートカットです。
ボタンのクリックにより、対応するメニューを選択した場合と同じ動作をします。














	[操作] - [プレビュー] に同じ。
	[操作] - [印刷] に同じ。
	[操作] - [削除] に同じ。
	[操作] - [印刷中止] に同じ。
	[表示] - [未印刷ジョブ] に同じ。
	[表示] - [印刷保留ジョブ] に同じ。
	[表示] - [印刷済ジョブ] に同じ。

登録プリンターステータス表示部

登録されているプリンターの、現在のステータスを表示します。

ステータスの表示はアイコンでおこなわれ、各アイコンの意味は以下のとおりです。

ただし、ステータス取得の対象となるのは“APTi Print Job Monitor Port”が設定されているプリンターに限ります。また、実際に取得可能なステータスの内容は、使用するプリンターのメーカーおよびモデルにより異なる場合があります。

	オンライン (印刷可能状態)
	オフライン
	用紙切れ
	カバーオープン
	トナーなし
	ウォーミングアップ中
	用紙ジャム
	電源オフ/ 応答なし
	不明なエラー
	タイムアウト
	監視なし (何らかの理由で監視対象となっていない)

ジョブ情報表示部

登録されているジョブの情報をリスト表示します。
表示される情報の種類と意味は以下のとおりです。

ジョブ名

ジョブの名前です。

ステータス

ジョブの状態です。表示される内容とその意味は以下のとおりです。

“保留”	印刷指示待ちの状態です。
“印刷待ち”	印刷指示されていますが、先のジョブが処理中等の理由で、印刷の順番を待っている状態です。
“印刷済 (Windowsスプーラーへ送信完了)”	印刷処理が完了した状態です。 Windowsスプーラーにデータが送信されたところまで確認された状態です。
“印刷済 (プリンタへ送信完了)”	印刷処理が完了した状態です。 プリンターにデータが転送されたところまで確認された状態です。
“印刷済 (排紙完了)”	印刷処理が完了した状態です。 プリンター上での排紙の完了まで確認された状態です。
“システムエラー”	システムでの処理中にエラーが発生し、処理が中断された状態です。
“デバイスエラー”	デバイスにエラーがあり処理が続行できない状態です。
“出力指定エラー”	出力の指示内容に誤りがあるため処理が続行できない状態です。
“ページ指定エラー”	ページの指定に誤りがあるため処理が続行できない状態です。
“中断”	印刷処理が、ユーザー要求によりキャンセルされた状態です。
“再試行中”	再印刷指示により、再度印刷処理を開始している状態です。
“印刷中”	印刷処理中の状態です。



排紙完了 のステータスの取得方法は、『3. 11 排紙完了ステータスの取得』をご覧ください

出力先

ジョブの出力先情報を表示します。

オプション

ジョブに設定されているプリンターオプションの情報を表示します。

データ定義

ジョブに設定されているデータ定義ファイルの情報を表示します。

回数

ジョブが出力された回数を表示します。

登録日時

ジョブが登録された日時を表示します。

最終出力日時

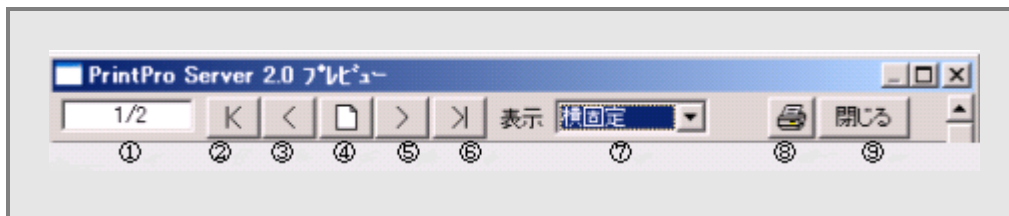
ジョブが最後に出力された日時を表示します。

ジョブ番号

ジョブを一意に識別する番号を表示します。

プレビュー画面コントロール部

プレビュー画面の操作は、画面上部のボタン等でおこないます。



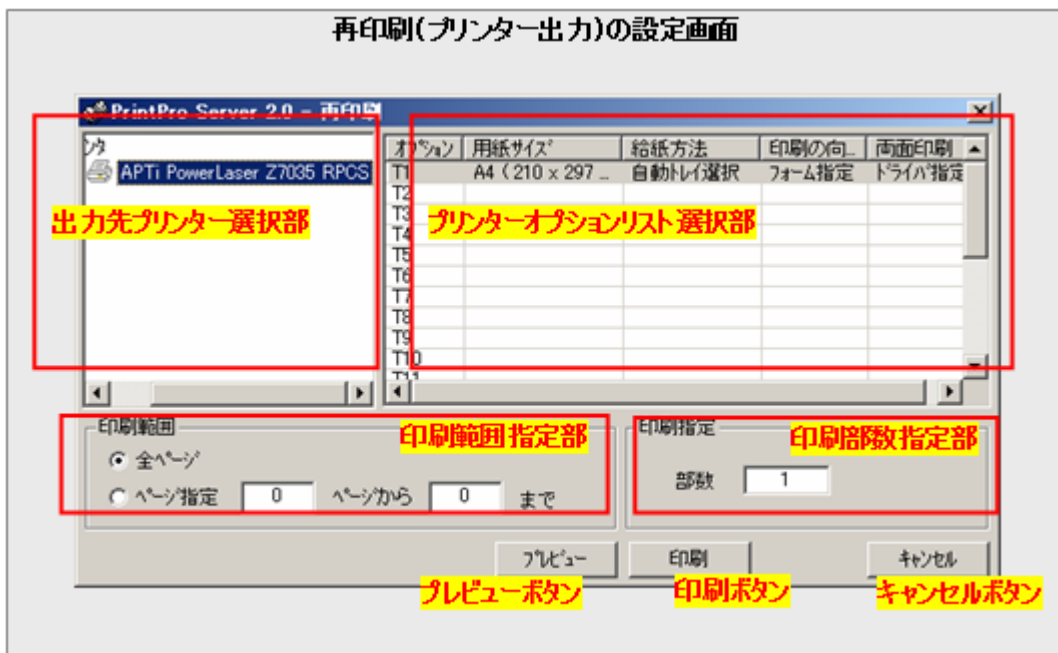
	説明1	説明2
① ページ番号表示	表示中のページ番号を表示します。	印刷に使用されるフォームの設計時に総ページ、総合計の指定がある場合、ページ／総ページの形式で表示されます。
② 先頭ページ ボタン	このジョブの先頭ページを表示します。	
③ 前ページ ボタン	表示中のページの、前のページを表示します。	
④ ページ番号指定 ボタン	指定されたページ番号のページを表示します。ページ番号入力のための画面が表示されます。	
⑤ 次ページ ボタン	表示中のページの、次のページを表示します。	
⑥ 最終ページ ボタン	このジョブの最後のページを表示します。	
⑦ 表示倍率選択	画面上の、ページの表示倍率を指定します。	
⑧ 印刷 ボタン	現在プレビューしているジョブの印刷をおこないます。印刷のための設定画面が表示されます。	<p>印刷のための設定画面:</p> <p>同画面の操作方法は『3.5 再印刷』を参照してください。</p>
⑨ 閉じる ボタン	プレビューを終了し、プレビュー画面を閉じます。	

3.5 再印刷

管理コンソール画面右側のジョブリストから、各ジョブに対して、印刷指示をおこなうことができます。この印刷を再印刷と呼びます。そのジョブが印刷済か未印刷に関わらず、この印刷を再印刷と呼びます。

3.5.1 再印刷(プリンター出力)の設定画面と操作方法

再印刷は、管理コンソールで再印刷を行う印刷ジョブを選択し、[操作]メニューの[印刷]を選択するか、または[印刷]ボタンをクリックすることにより表示される再印刷の設定画面からおこないます。



出力先プリンター選択部

再印刷の出力先とする登録プリンターを選択します。



出力先が“PDF”として登録されたジョブに対して、出力先をプリンターに変更することはできません。また、逆に、出力先がプリンターとして登録されたジョブに対して出力先を“PDF”とすることもできません。

プリンターオプションリスト選択部

再印刷に使用するプリンターオプションを選択します。

出力先プリンター選択部で選択されたプリンターの、プリンターオプションのリストが表示されます。

印刷範囲指定部

再印刷で出力する、ページの範囲を指定します。

以下の内容のいずれかが指定可能です。

"全ページ"	全ページを出力します。
"ページ指定"	指定された範囲のページだけ出力します。 開始ページ番号と終了ページ番号を指定します。

印刷部数指定部

再印刷で出力するジョブの、部数を指定します。

コピーはページ単位でおこなわれ出力されます。ジョブ単位でのコピー出力はできません。

例.
3ページ (P1, P2, P3) のジョブに対して、2部のコピーを指定した場合
→ 出力は (P1, P1, P2, P2, P3, P3) となります。



注意

複写紙モードで投入されたジョブを再印刷する場合、投入時と同じ部数を指定する必要があります。

プレビューボタン

再印刷で出力するジョブの、プレビュー画面を表示します。

印刷ボタン

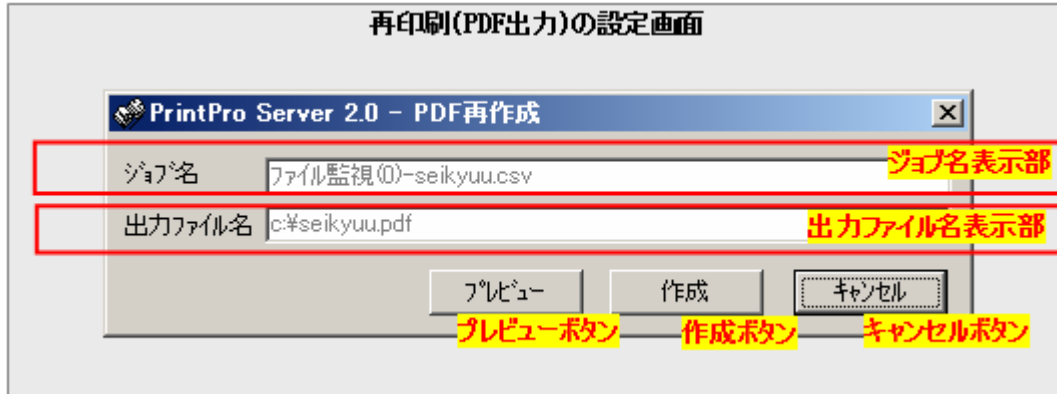
本画面で指定された内容に基づいて印刷を実行します。

キャンセルボタン

本画面で指定された内容を破棄し、画面を閉じます。

3.5.2 再印刷(PDF出力)の設定画面と操作方法

出力先が“PDF”として登録されたジョブを再印刷する場合、以下の再印刷画面が表示されます。



ジョブ名表示部

出力するジョブの、名前が表示されます。この名前はシステムによって決定され、変更することはできません。

出力ファイル名表示部

出力するファイルの名前(フルパス)を表示します。この名前はシステムによって決定され変更することはできません。

プレビューボタン

出力するジョブの、プレビュー画面を表示します。

作成ボタン

本画面で指定された内容に基づいてPDFファイルを作成します。

キャンセルボタン

本画面で指定された内容を破棄し、画面を閉じます。

3.6 プリンターとプリンターオプションの設定

本製品では、あらかじめ使用するプリンターを登録する必要があります。

プリンターを登録するとは、Windowsのプリンターフォルダーにあるプリンターのリストから、どのプリンターを本製品で使用するのか、宣言することです。

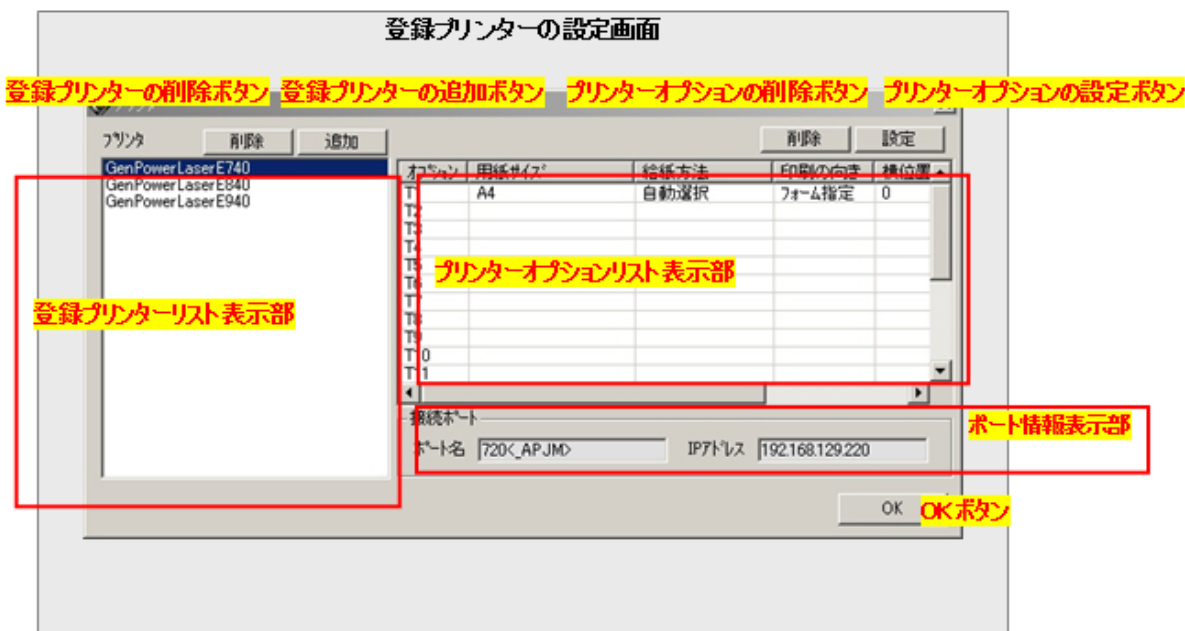


- ・クライアント管理コンソールでは、プリンターの登録をおこなうことはできません。
- ・プリンターの接続ポートを変更した場合、本製品を一度停止し、再度起動する必要があります。
- ・プリンターのステータス監視を有効にするには、プリンターの出力先ポートとして“APTi Print Job Monitor Port”が設定されている必要があります。同ポートが選択されていない場合、ジョブの出力はできますが、プリンターのステータスを監視することはできません。

また、登録されたプリンターには、そのプリンターで出力するときに合わせて指定する、プリンターオプションと呼ばれる内容を定義します。プリンターオプションは、プリンターの動作に関する設定内容の集合のことで、具体的には、用紙サイズや給紙方法などの設定です。

3.6.1 登録プリンターの設定画面と操作方法

登録プリンターの設定画面の表示は、管理コンソールの[設定] - [プリンタ] を選択すると表示されます。



登録プリンターリスト表示部

システムに登録済みのプリンターの名前をリスト表示します。

プリンターオプションリスト表示部

登録プリンターリスト表示部で選択されているプリンターの、プリンターオプションの情報をリスト表示します。

ポート情報表示部

登録プリンターリスト表示部で選択されているプリンターの、ポートの情報を表示します。
ただし、APTi Print Job Monitor Port 以外が設定されている場合、情報は表示されません。

登録プリンターの削除ボタン

登録済みのプリンターを、削除します。
削除したいプリンターを登録プリンターリスト表示部で選択し、本ボタンをクリックします。

登録プリンターの追加ボタン

新規に登録プリンターを追加します。
本ボタンをクリックし、表示されるプリンター選択画面にて、登録したいプリンターを選択し、選択画面の追加ボタンをクリックします。



プリンターオプションの削除ボタン

登録されたプリンターオプションを削除します。
削除したいプリンターオプションをプリンターオプションリスト表示部で選択し、本ボタンをクリックします。

プリンターオプションの設定ボタン

プリンターオプションの設定をおこないます。

設定したいプリンターオプションをプリンターオプションリスト表示部で選択し、本ボタンをクリックします。



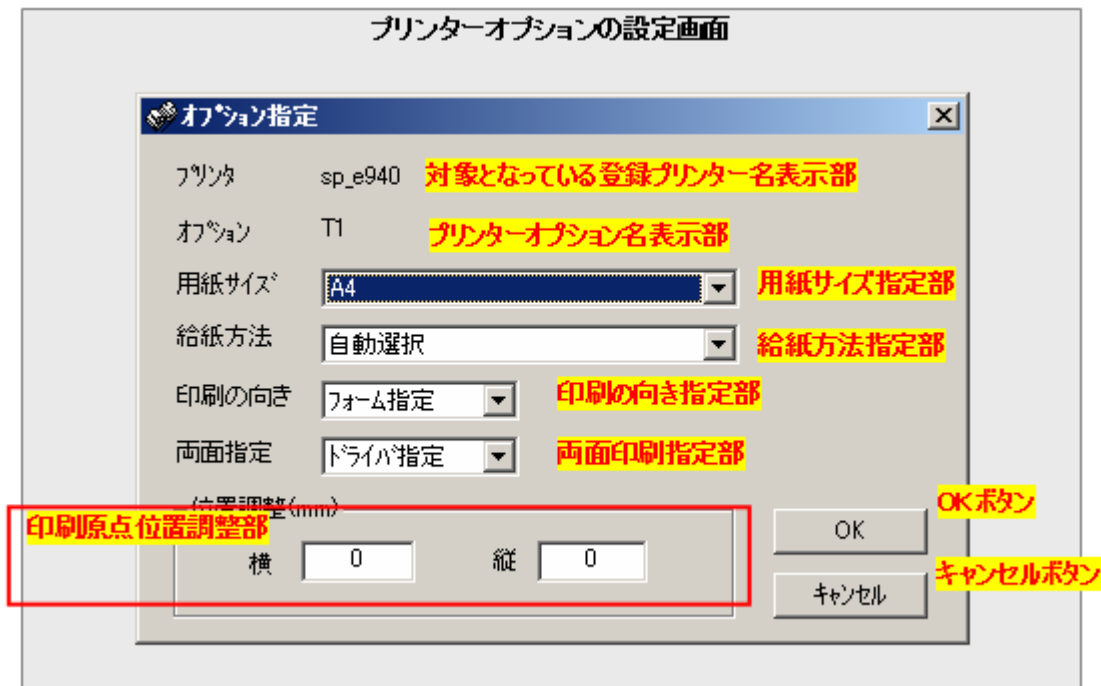
プリンターオプションの設定画面が表示されるので、希望の設定をおこなってOKボタンをクリックします。

OKボタン

本画面での設定内容を保存し、画面を閉じます。

3. 6. 2 プリンターオプションの設定画面と操作方法

プリンターオプションの設定画面は、登録プリンターの設定画面で、プリンターオプションの設定ボタンをクリックした場合に表示され、プリンターオプションの内容を設定するのに使用されます。



対象となっている登録プリンター名表示部

この画面でのプリンターオプション設定が、対象となっている登録プリンター名を表示します。

プリンターオプション名表示部

この画面でのプリンターオプション設定の、名前を表示します。

用紙サイズ指定部

このプリンターオプションが適用されるジョブの、印刷に使用する用紙サイズを指定します。

以下の内容が選択可能です。

“フォーム指定”	データ定義ファイルでは、フォームの定義ごとに用紙サイズの指定情報を持ちます。このフォーム定義に保存されている用紙サイズで出力します。
対象プリンターで使用可能な用紙サイズ	対象の登録プリンターの、プリンタードライバーが使用可能としている用紙サイズのリストを表示します。出力に使用したい用紙サイズを指定します。

このとき、フォーム定義に保存されている用紙サイズの情報は無視されます。

給紙方法指定部

このプリンターオプションが適用されるジョブの、印刷に使用する用紙サイズを指定します。

以下の内容が選択可能です。

“フォーム指定”	データ定義ファイルでは、フォームの定義ごとに給紙方法の指定情報を持ちます。このフォーム定義に保存されている給紙方法で出力します。
対象プリンターが使用可能な給紙方法	対象の登録プリンターの、プリンタードライバーが使用可能としている給紙方法のリストを表示します。出力に使用したい給紙方法を指定します。このとき、フォーム定義に保存されている給紙方法の情報は無視されます。

印刷の向き指定部

このプリンターオプションが適用されるジョブの、印刷に使用する向きを指定します。

以下の内容が選択可能です。

“フォーム指定”	データ定義ファイルでは、フォームの定義ごとに印刷の向きの指定情報を持ちます。このフォーム定義に保存されている印刷の向きで出力します。
“縦”	用紙を縦の方向に使用して印刷します。このとき、フォーム定義に保存されている印刷の向きの情報は無視されます。
“横”	用紙を横の方向に使用して印刷します。このとき、フォーム定義に保存されている印刷の向きの情報は無視されます。

両面印刷指定部

このプリンターオプションが適用されるジョブの、両面印刷に関わる内容を設定します。

以下の内容が選択可能です。

“ドライバ指定”	Windowsプリンターフォルダーのプリンターで、そのとき設定されている内容をそのまま使用します。
“片面”	片面に印刷をおこないます。
“両面長辺とじ”	両面に印刷をおこないます。用紙の長辺をとじる方向で両面印刷します。
“両面長辺とじ”	両面に印刷をおこないます。用紙の短辺をとじる方向で両面印刷します。

両面印刷をおこなう場合は、そのプリンターが両面印刷をサポートしてはなりません。

印刷原点位置調整部

このプリンターオプションが適用されるジョブの、印刷原点の位置調整量を指定します。

指定は、横方向と縦方向に、個別に設定可能です。

横方向は左から右の方向をプラスの向き、縦方向は上から下の方向をプラスの向きとし、単位はミリメートル、小数点第一位まで使用可能で、

“99.9” ~ “-99.9”

の範囲で指定します。

OKボタン

本画面の指定内容を保存し、この画面を閉じます。

キャンセルボタン

本画面の指定内容を保存せずに破棄し、この画面を閉じます。

3.7 論理プリンターの設定

論理プリンターとは、登録されたプリンターに対し別名を与え、ジョブ操作におけるプリンターへの参照をその別名でおこなうようにする機能、またはその別名におけるプリンターを示す言葉です。

プリンターに論理プリンター名を付け、論理プリンター名を指定して印刷するようしておくことで、実際に印刷する目的のプリンターが他のプリンターに変わっても、他のジョブ設定を変更することなく作業を続けることができます。

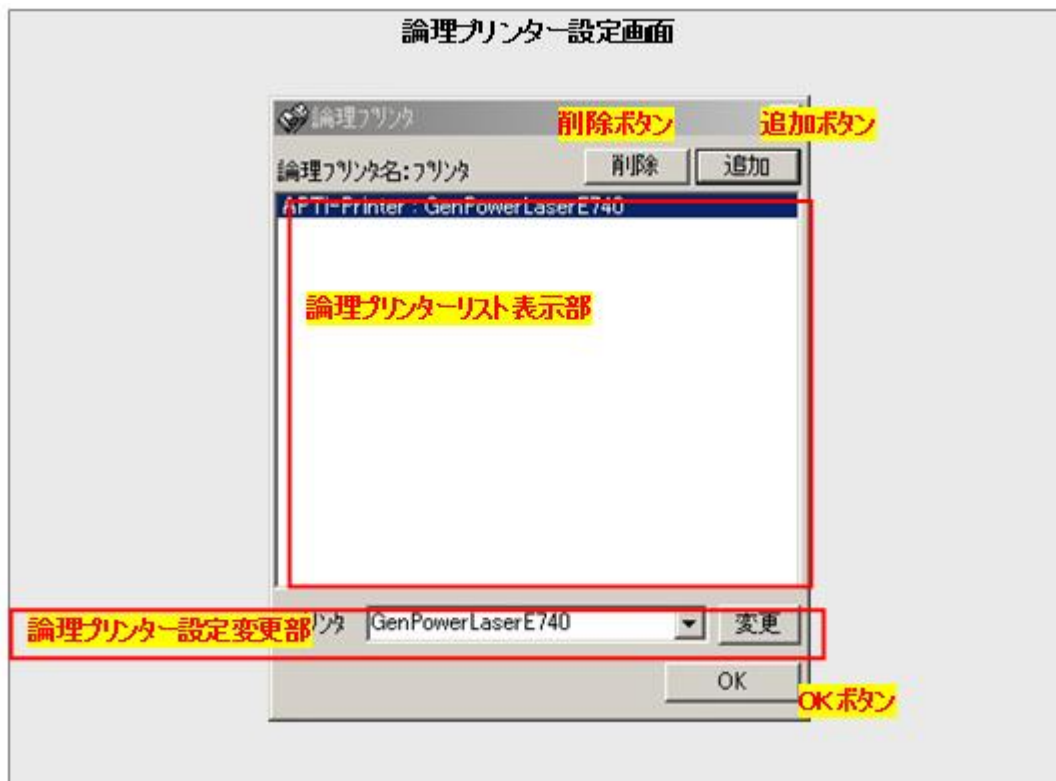
プリンターに論理プリンター名を付け、論理プリンター名を指定して目的のプリンターに印刷させることができます。

**注意**

クライアント用管理コンソールから、論理プリンターを登録することはできません。

3.7.1 論理プリンターの設定画面と操作方法

論理プリンターの設定画面を表示するには、まず、管理コンソールのメニューの[設定] - [環境] から、環境設定の画面を表示し、[論理プリンタ名を使用する]にチェックを入れます。その後、同メニューの [設定] から [論理プリンタ] の選択によりおこないます。



論理プリンターリスト表示部

現在登録されている、全ての論理プリンターの情報を表示します。

表示は以下の書式でおこなわれます。

論理プリンター名=関連付けられている登録プリンター名

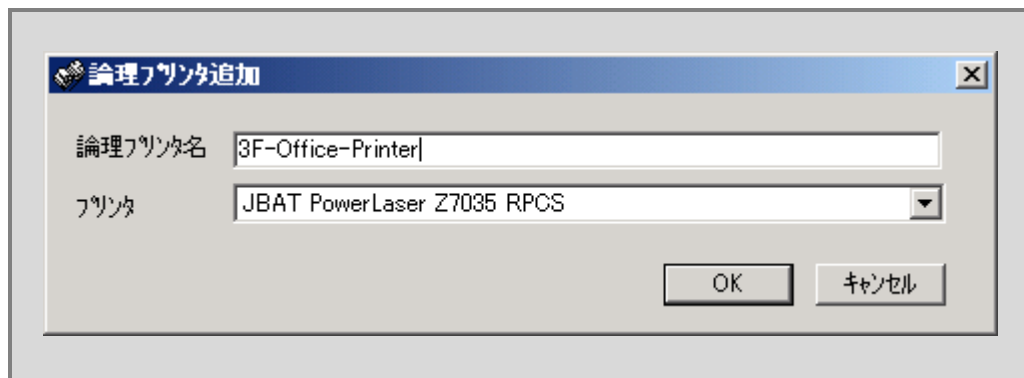
削除ボタン

論理プリンターリスト表示部で選択されている論理プリンターを、削除します。

追加ボタン

新規に論理プリンターを登録します。

本ボタンをクリックすると、論理プリンター名と、対応付ける登録プリンター名を入力する画面が表示されますので、それぞれ入力します。



The image shows a dialog box titled "論理プリンタ追加" (Add Logical Printer). It has two input fields. The first is labeled "論理プリンタ名" (Logical Printer Name) and contains the text "3F-Office-Printer". The second is labeled "プリンタ" (Printer) and is a dropdown menu currently showing "JBAT PowerLaser Z7035 RPCS". At the bottom right of the dialog are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

論理プリンター設定変更部

既に登録済みの論理プリンターに対して、対応付けている登録プリンターを変更する場合に使用します。

変更したい論理プリンターを論理プリンターリスト表示部より選択すると、現在対応付けられている登録プリンター名が本部分に表示されるので、変更したい登録プリンター名に変更・選択のうえ、変更ボタンをクリックします。

OKボタン

本画面での設定内容を保存し、本画面を閉じます。

3.8 ファイル監視設定

本製品は、指定されたフォルダーを監視し、指定された種類のファイルが投入されると、指定された内容でジョブを登録し、印刷を実行する機能があります。この機能を“ファイル監視機能”または“フォルダー監視機能”と呼びます。

ファイル監視機能の設定は、管理コンソールのメニュー [設定] - [ファイル監視] からおこないます。同メニューを選択すると、ファイル監視のための設定画面が起動します。

フォルダに投入したファイルの「投入順序」と、「印刷の順序」の一致は保障されません。



特に、短時間で複数のファイルを投入した場合や、投入されたファイルのサイズが大きく、フォルダへの書き込みに時間がかかる場合などは、意図する順序とならない場合があります。

3.8.1 ファイル監視の設定画面と操作方法

ファイル監視の設定画面

The screenshot shows the 'File Monitoring Settings' window. It contains two main tables and several control buttons on the right side.

監視フォルダー情報表示兼フォルダー監視方法設定部 (Monitoring Folder Information and Monitoring Method Setting Section):

監視フォルダ	監視方法
C:\OUT	イベント

ファイルタイプ情報表示部 (File Type Information Display Section):

ファイル名	アーカイブファイル	出力先	オフライン
se	C:\WATCHSRC\seikyudat	PDF	T1

監視フォルダー追加ボタン (Monitoring Folder Add Button)

監視フォルダー削除ボタン (Monitoring Folder Delete Button)

ファイルタイプ優先度設定部 (File Type Priority Setting Section):

ファイルタイプ追加ボタン (File Type Add Button)

ファイルタイプ変更ボタン (File Type Change Button)

ファイルタイプ削除ボタン (File Type Delete Button)

共通設定ボタン (Common Settings Button)

OKボタン (OK Button)

監視フォルダー情報表示部

現在システムに登録されている監視フォルダーの以下の情報をリスト表示します。

- ・監視フォルダーの場所
- ・監視フォルダーの監視方法

監視フォルダーの追加(場所指定)および削除は、監視フォルダー追加ボタン および 監視フォルダー削除ボタンからおこないます。

監視方法は、どのようにファイルを監視するか、の指定で、以下の2種類があります。

“ポーリング”	フォルダーを3秒毎にスキャンし、ファイルの有無を確認します。
“イベント”	フォルダーに対して、ファイルの投入を通知するWindowsシステムイベントを利用してフォルダーを監視します。

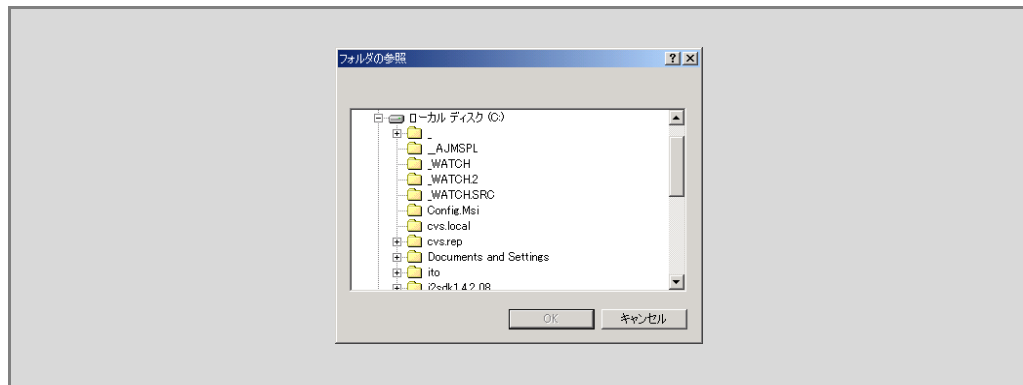
これらはフォルダー毎に設定可能で、現在の設定は、本表示部の2列目に表示されます。

監視方法を変更したい場合、本表示部上で、変更したい監視フォルダー部分をダブルクリックします。

監視フォルダー追加ボタン

監視対象とするフォルダーを追加する場合、本ボタンをクリックします。

本ボタンをクリックすると、以下のようなフォルダーの参照画面が表示されます。



監視対象としたいフォルダーを選択した[OK]ボタンをクリックします。

監視対象とできるフォルダーの種類とフォルダーの最大数は以下のとおりです。

監視可能なフォルダーの場所	ローカルシステム上のフォルダー。 ネットワークフォルダは不可。
登録可能なフォルダーの最大数	20

監視フォルダー削除ボタン

現在システムに登録されている監視フォルダーのリストから監視フォルダーを削除します。
監視フォルダー情報表示部で、削除したい監視フォルダーを選択の上、本ボタンをクリックします。



- ・監視フォルダーの削除をおこなうと、そのフォルダーに対して設定されたファイルタイプも全て削除されます。

ファイルタイプ情報表示部

監視フォルダー情報表示部で、現在選択されている監視フォルダーに定義されているファイルタイプの情報をリスト表示します。

ファイルタイプとは、ファイル監視機能において、監視フォルダーに投入されたとのファイルをジョブ化するか、およびジョブ化する際の設定内容に対する呼称です。ファイルタイプは監視フォルダー毎に設定可能です。



- ・ファイルタイプ設定内容の詳細については、『3.8.2 ファイルタイプの設定画面と操作方法』を参照してください。
- ・ファイルタイプの登録方法については「ファイルタイプ追加ボタン」を参照してください。
- ・ファイルタイプの削除方法については「ファイルタイプ削除ボタン」を参照してください。
- ・ファイルタイプの優先度変更の方法については「ファイルタイプ優先度設定部」を参照してください。

ファイルタイプ優先度設定部

ファイルタイプは、ひとつの監視フォルダーに対して複数定義することができます。本システムは、投入されたファイルに対して、各ファイルタイプのジョブ化のための条件が一致するかどうか、順次チェックしていきます。このときの処理順序を優先度といい、本設定部より設定可能です。

ファイルタイプの優先度は、ファイルタイプ情報表示部で確認できます。優先度はファイルタイプ情報表示部の表示順序に一致し、上側の位置にあるほど高い優先度を、下側にあるほど低い優先度を持ちます。

優先度を変更する場合、まず、ファイルタイプ情報表示部で変更したいファイルタイプを選択状態にします。この状態で、

優先度を上げたい場合 “↑” ボタン を、

優先度を下げたい場合 “↓” ボタン を

クリックします。

ファイルタイプ追加ボタン

監視フォルダー情報表示部で、現在選択されている監視フォルダーに対して、ファイルタイプの定義を追加します。ひとつの監視フォルダーに登録可能なファイルタイプの数以下のとおりです。

登録可能なファイルタイプの最大数 (1監視フォルダーあたり)	500
-----------------------------------	-----

本ボタンをクリックすると、ファイルタイプ設定画面が表示されますので、『3.8.2 ファイルタイプの設定画面と操作方法』をご覧ください。

なお、この操作により設定されたファイルタイプには、ファイルタイプ情報表示部で、そのとき選択状態にあったファイルタイプの優先度が与えられます。選択状態にあったファイルタイプ、およびそれ以下の優先度をもっていたファイルタイプの優先度は、全てひとつずつ下がります。

ファイルタイプ変更ボタン

すでに登録されているファイルタイプの設定内容の変更をおこないます。

ファイルタイプ情報表示部で、設定変更尾したいファイルタイプを選択状態にし、本ボタンをクリックします。ファイルタイプ設定画面が表示されますので、『3.8.2 ファイルタイプの設定画面と操作方法』をご覧ください。

ファイルタイプ削除ボタン

登録されているファイルタイプの削除をおこないます。

ファイルタイプ情報表示部で、削除したいファイルタイプを選択状態にし、本ボタンをクリックします。

共通設定ボタン

ファイル監視機能で共通に使用される内容に関する設定をおこないます。

本ボタンをクリックすると、共通設定画面が表示されるので、『3.8.3 共通設定画面と操作方法』をご覧ください。

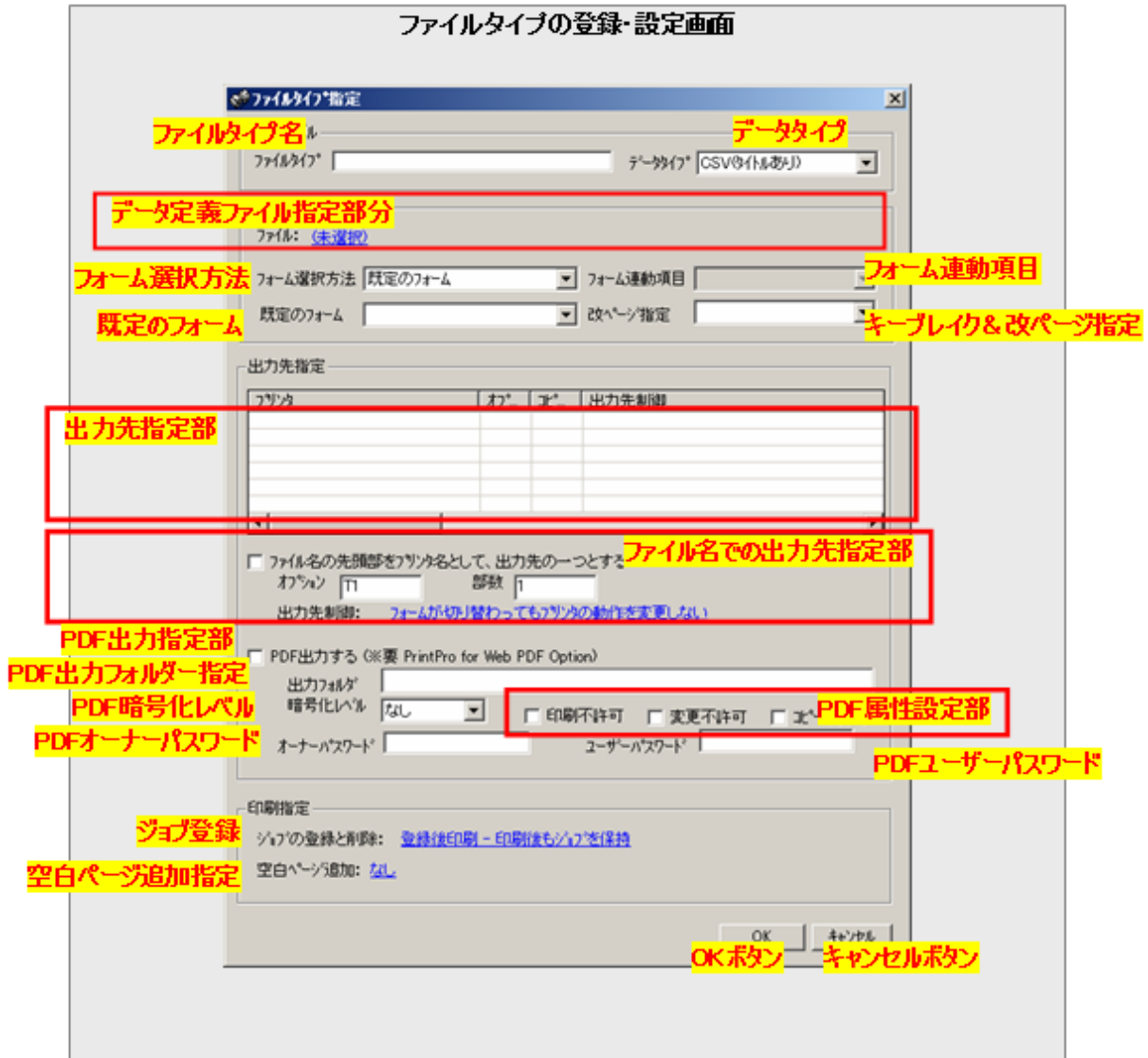
OKボタン

ファイル監視機能で設定した内容を保存/有効にし、ファイル監視の設定画面を終了します。



本ボタンをクリックするまで、設定内容は有効になりません。

3. 8. 2 ファイルタイプの設定画面と操作方法



ファイルタイプ名

ジョブ化の対象とするファイル名を指定します。

投入されたファイルの名前が、ここで指定したファイル名と一致すると、このファイルタイプ定義内容にしたがってジョブ化されます。

指定は文字でおこない、基本的にWindowsファイルシステムで使用可能な文字と、半角文字のアスタリスク“*”が使用できます。ただし、以下の文字は使用できません。

文字	説明
¥	半角の円マーク
/	半角のスラッシュ
:	半角のコロン
,	半角のカンマ
;	半角のセミコロン
?	半角のはてな
”	半角のダブルクォーテーション
<	半角の大小記号
>	半角の大小記号
	半角の縦バー



ファイルタイプ名の指定では、大文字小文字が区別されます。

なお、アスタリスクは、不定文字数に対するワイルドカードとして機能します。

以下、ファイルタイプ名指定の例を示します。

例1. abc.csv
ファイル名が完全に一致した場合に登録されます。

例2. abc*.csv
ファイル名の先頭3文字が“abc”で、ファイル最後の4文字が“.csv”の場合に登録されます。

例3. *abc.csv
ファイル名の後ろ7文字が“abc.csv”の場合に登録されます。

例4. abc.*
ファイル名の先頭4文字が“abc.”の場合に登録されます。

投入されたファイルの名前の中にドットが使われている場合、一番後に現れるドットと以降の文字列をあわせて、拡張子と呼びます。本ファイル監視機能では、投入されるファイルの拡張子は、以下のいずれかである必要があります。

.csv (大文字小文字問わず)
.tab (大文字小文字問わず)
.txt (大文字小文字問わず)
(拡張子無し)

このいずれとも一致しない場合、たとえ本ファイルタイプ名と一致しても処理されません。



- ・ファイルタイプ名にアスタリスク“*”は1つのみ指定可能です。
- ・ファイルタイプ名の指定で明示的に拡張子の指定をおこなった場合には、投入されるファイルの拡張子の大文字小文字も一致する必要があります。
たとえばファイルタイプ名指定で“abc.CSV”とした場合、このファイルタイプのために投入されるファイル名の拡張子は、全て大文字の“CSV”でなくてはなりません。abc.csvやabc.Csvは処理されません。
- ・同じフォルダーに対して、同一のファイルタイプ名をもつファイルタイプを定義することはできません。
ワイルドカード(*)を利用して、包含関係にあるファイルタイプを作成することは可能です。

データタイプ

ファイルタイプ名によって識別される投入ファイルの、データ書式を指定します。
指定(使用)可能なデータの書式は以下のとおりで、該当するものを選択します。

“CSV(タイトルあり)”	投入されたファイルはCSV(Comma Separated Value)形式で記述されている。 また、1行目はタイトル行である=1行目は実際のデータでない。
“CSV(タイトルなし)”	投入されたファイルはCSV(Comma Separated Value)形式で記述されている。 また、1行目から実際のデータである。
“TAB(タイトルあり)”	投入されたファイルはTAB区切り形式で記述されている。 また、1行目はタイトル行である=1行目は実際のデータでない。
“TAB(タイトルなし)”	投入されたファイルはTAB区切り形式で記述されている。 また、1行目から実際のデータである。

データ定義ファイル指定部分

ジョブのデータ定義ファイルを指定します。

青字部分をクリックすると、ファイル選択のための画面が表示されるので、使用するデータ定義ファイルを選択してください。

フォーム選択方法

ジョブの、出力において使用するフォームの選択を指定します。

指定可能な内容とその意味は以下のとおりです。

“既定のフォーム “フォーム自動選択”	本画面の[既定のフォーム]で指定されたフォームを使って印刷します。 使用するフォームはデータで指定します。 [フォーム連動項目]で指定された項目データが指定するフォームで印刷します。
“2ページ目以降に次のフォームを使用する”	最初は[既定のフォーム]で指定されたフォームを使って印刷します。印刷中に、キーブレイク条件以外による改ページが発生すると、その次のページ以降は、データ定義ファイル内で[既定のフォーム]の次に定義されているフォームを使用して印刷します。 キーブレイク条件による改ページが発生すると、再び[既定のフォーム]を使用します。
“複写紙モード”	部数で指定された数を、複写数としてフォームを切り替えながら印刷します。 たとえば“3”が指定された場合、各ページを3種類のフォームで印刷します。これらのフォームは、既定のフォームで指定されてフォームと、データ定義ファイル内でフォームの定義順序によって定まります。複写数が3であれば、既定のフォームとその次、およびその次に定義されているフォームが各ページの印刷に使用されます。 ただし、このモードを、各フォームの切り替わりによってページの構成が変わってしまうような印刷ジョブに適用することはできません。また、本モードを使用する場合、部数コピーをおこなうことはできません。

フォーム連動項目

[フォーム選択方法]で“フォーム自動選択”が指定されている場合にのみ有効な指定項目で、データのどの項目がフォームを指定するのかを指定します。

[データ定義ファイル指定部分]で選択したデータ定義ファイルに応じて、定義されている項目名が列挙されるので、フォームを指定する項目を選択します。



注意

本設定の前に、「データ定義ファイル指定部分」でデータ定義ファイルを選択してください。選択しないと項目が表示されません。

既定のフォーム

ジョブの、出力に際して基本となるフォームを指定します。

具体的な使われ方は、「フォーム選択方法」をご覧ください。

[データ定義ファイル指定部分]で選択したデータ定義ファイルに応じて、定義されているフォーム名が列挙されるので、既定のフォームとしたいフォームを選択します。



注意

本設定の前に、「データ定義ファイル指定部分」でデータ定義ファイルを選択してください。選択しないと項目が表示されません。

キーブレイク&改ページ指定

ジョブの、出力に際してのキーブレイク条件および改ページ条件を指定します。

指定可能な内容とその意味は以下のとおりです。

“通常”	キーブレイクは発生しません。 明細行数を超えると改ページが発生します。
“毎レコード”	キーブレイクは発生しません。 毎レコード改ページが発生します。
項目名	項目名の項目内容が前のレコードの内容と異なると、キーブレイクおよび改ページが発生します。 また、明細行数を超えると改ページが発生します。



本設定の前に、「データ定義ファイル指定部分」でデータ定義ファイルを選択してください。選択しないと項目が表示されません。



ラベルフォームを使った印刷では、本指定は無視されます。

出力先指定部

出力に使用するプリンターを指定、または表示します。

ひとつのファイルタイプに対して、複数の出力先を指定することも可能です。

指定をする場合、本指定部を右クリックし、表示されるポップアップメニューに対して[追加]を選択します。出力先/オプション指定画面が表示されますので、その中で指定処理をおこないます(☞[3.8.4 出力先/オプション指定画面と操作方法])。

削除をする場合、削除したいアイテムを右クリックし、表示されるポップアップメニューに対して[削除]を選択します。15個まで出力先を指定することができます。



画面上のプリンターの登場順序に意味はありません。

ファイル名での出力プリンター指定部

ジョブの出力に使用するプリンターの指定を、ファイル名でおこなうかどうかを指定します。

ファイル名で指定する場合、本チェックボックスをオンにします。

ファイル名での指定は、ファイル名の先頭に、プリンターの名前とドットを付加することでおこないます。指定するプリンターの名前は登録プリンター名、または論理プリンター名です。以下に例を示します。

例. ファイルタイプ名 abc.csv に対して、ファイル名の先頭でプリンターを指定されている場合。
投入ファイル名が
MyPrinterA.abc.csv → 登録プリンター/論理プリンター MyPrinterA で出力されます。
MyPrinterB.abc.csv → 登録プリンター/論理プリンター MyPrinterB で出力されます。

なお、ファイルタイプ名による判定は、プリンター名とドットを取り除いた後の名前でおこなわれます。

例. 投入ファイル名がMyPrinterA.abc.csvの場合
→ ファイルタイプ名とのマッチングは abc.csv が対象となります。



本指定を行った場合、投入されたファイル名の最初のドットまでの名前がプリンター名とみなされます。そのため、プリンター名自体にドットが含まれているプリンターに対して本機能を使用することはできません。

この指定は、出力先指定部による出力先の指定(☞『3.8.2 - 出力先指定部』)、およびPDF出力の指定(☞『3.8.2 - PDF出力指定』)と同時に起こうことができます。

本機能を有効にする場合、あわせて以下の内容を指定します。

“オプション”	本機能により出力する際に使用する、オプションを指定します。 オプションの意味については、『3.6 プリンターとプリンターオプションの設定』を参照してください。
“部数”	本機能により出力する際の、コピー部数を指定します。 コピー部数の意味については、『3.8.4 出力先/オプション指定画面と操作方法』を参照してください。
“出力先制御”	本機能により出力する際の、出力先制御を指定します。 出力先制御の意味については、『3.8.5 出力先制御画面と操作方法』を参照してください。

PDF出力指定部

ジョブを、PDF出力するかどうかを指定します。



- ・PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option (別売) のバージョン 2.11以降が必要です。
- ・PDFファイル名はパスを含め126バイトまでとなります。(半角英数文字は1バイト、全角文字は2バイトとなります)

PDF出力をする場合、本チェックボックスをオンにします。

この指定は、出力先指定部による出力先の指定(☞『3.8.2 - 出力先指定部』)、およびファイル名による出力の指定(☞『3.8.2 - ファイル名での出力プリンター指定部分』)と同時に起こうことができます。

PDF出力先フォルダー

PDF出力する場合の、出力先フォルダーのパスを指定します。

出力先として指定可能なフォルダーは、本製品が稼働しているPCのローカルフォルダーです。なお、このフォルダーは存在している必要があります。自動的に作成はされません。

指定は絶対パスでおこないます。

例. C:\pdffolder



注意

PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option（別売）のバージョン2.11以降が必要です。

PDFファイルは、既定で以下の名前が与えられます。

投入されたファイル名から拡張子を除いたもの + “.pdf”

例1.
投入ファイルの名前が“abc.csv”の場合
→ abc.pdf

例2.
投入ファイルの名前が“xyz”の場合
→ xyz.pdf

これ以外のファイル名を指定したい場合、『3.8.3 共通設定画面と操作方法』を参照してください。

なお、出力先フォルダーに、上記により決定されたPDFファイル名と同名のファイルがある場合には、自動的に以下のように名前付けされます。

投入されたファイル名から拡張子を除いたもの + “_” + 三桁の整数 + “.pdf”

例1.
投入ファイルの名前が“abc.csv”で、“abc.pdf”が既に出力先フォルダーにある場合
→ abc_001.pdf

例2.
投入ファイルの名前が“abc.csv”で、“abc.pdf”と“abc_001.pdf”が既に出力先フォルダーにある場合
→ abc_002.pdf

三桁の整数は、001から999まで、順次1ずつ増加していきます。999まで達すると、再び001が使用されます。



注意

三桁の整数の値は、重複ファイルが生成された回数にもとづいて決まります。
例えば、“abc.pdf”が重複し、“abc_001.pdf”、“abc_002.pdf”、“abc_003.pdf”が生成された状態から“abc_002.pdf”、“abc_003.pdf”を削除した場合でも、次に生成されるファイルの名前は“abc_004.pdf”です。

ファイル名書式

PDF出力する場合の、PDFファイル名の書式を指定します。

[既定]をクリックすると、PDFファイル名設定画面が表示されるので、『3.8.8 PDFファイル名設定画面と操作方法』をご覧のうえ、設定をおこなってください。



ファイル名書式を設定する([既定]がアクティブになっている)には、[共通設定]の[PDFファイル名書式]で[PDFファイル名書式一括/個別指定の選択]として[ファイルタイプ毎に個別設定を適用する]を選択する必要があります。

共通設定については、『3.8.3 共通設定画面と操作方法』を参照してください。

PDF暗号化レベル

PDF出力する場合の、PDFファイルの暗号化レベルを指定します。

指定可能な内容とその意味は以下のとおりです。

“なし”	暗号化をおこないません。
“40bit”	鍵長を40ビットとして暗号化します。
“128bit”	鍵長を128ビットとして暗号化します。



PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option (別売) のバージョン2.11以降が必要です。

PDF属性設定部

PDF出力する場合の、PDFファイルの、以下の属性に関する指定をおこないます。

指定可能な内容とその意味は以下のとおりです。

“印刷不許可”	生成されたPDFファイルの、印刷の許可/不許可を指定します。チェックボックスを有効にした場合、印刷許可しないことを意味します。
“変更不許可”	生成されたPDFファイルの、変更の許可/不許可を指定します。チェックボックスを有効にした場合、変更許可しないことを意味します。
“コピー不許可”	生成されたPDFファイルの、コピーの許可/不許可を指定します。チェックボックスを有効にした場合、コピー許可しないことを意味します。



PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option (別売) のバージョン2.11以降が必要です。

PDFオーナーパスワード

PDF出力する場合の、オーナーパスワードを指定します。
20文字以内で、半角の大文字小文字の英字と数字('A'~'Z'、'a'~'z'、'0'~'1')のみ使用可能です。



PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option（別売）のバージョン2.11以降が必要です。

PDFユーザーパスワード

PDF出力する場合の、ユーザーパスワードを指定します。
20文字以内で、半角の大文字小文字の英字と数字('A'~'Z'、'a'~'z'、'0'~'1')のみ使用可能です。



PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option（別売）のバージョン2.11以降が必要です。

OKボタン

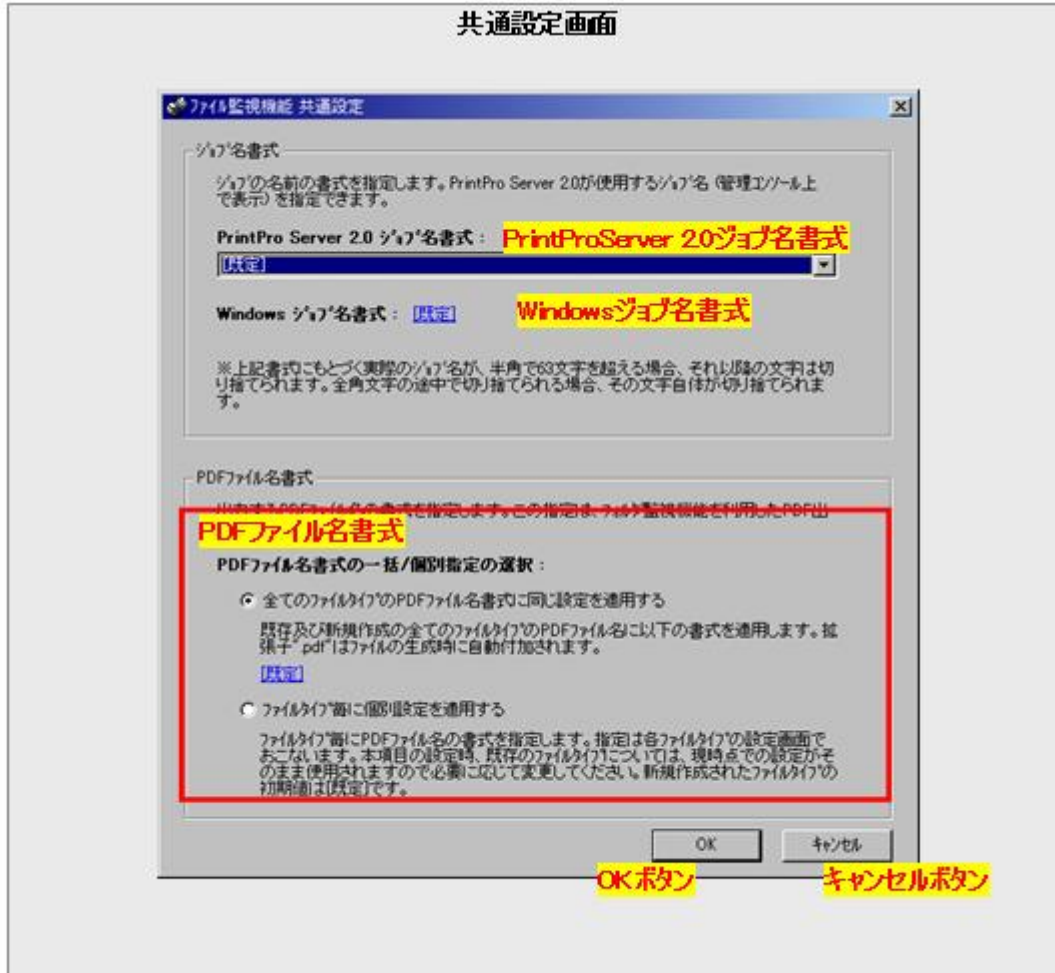
本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3. 8. 3 共通設定画面と操作方法

共通設定画面では、ファイル監視機能における、共通の設定内容を設定できます。



PrintPro Server 2.0 ジョブ名書式

ファイル監視機能によって生成されたジョブの、PrintPro Server 2.0が管理に使用するジョブの名前(管理コンソール上に表示)の書式を指定します。指定は選択式で、以下の内容から選択できます。

“[既定]”	本システムによって決定される既定の名前を使用します。
“[フォーム定義ファイル名(拡張子無)]”	ジョブに使用されるフォーム定義ファイル/データ定義ファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。
“[投入ファイル名(拡張子無)]”	投入されたファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。

Windows ジョブ名書式

ファイル監視機能によって生成されたジョブの、Windowsが管理に使用するジョブの名前(プリンターキューウィンドウで表示)の書式を指定します。指定は選択式で、以下の内容から選択できます。

“[既定]”	本システムによって決定される既定の名前を使用します。
“[フォーム定義ファイル名(拡張子無)]”	ジョブに使用されるフォーム定義ファイル/データ定義ファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。
“[投入ファイル名(拡張子無)]”	投入されたファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。
“[PrintPro]”	常に“PrintPro”という名前を使用します。



本機能は過去との互換性のためにのみ用意されています。可能な限り [既定] の設定で利用してください。これ以外の設定をおこなった場合、プリンターによっては印刷中のまま出力できないなどの問題が発生する場合があります。

PDFファイル名書式

フォルダー監視機能を利用して出力するPDFファイルの書式を指定します。

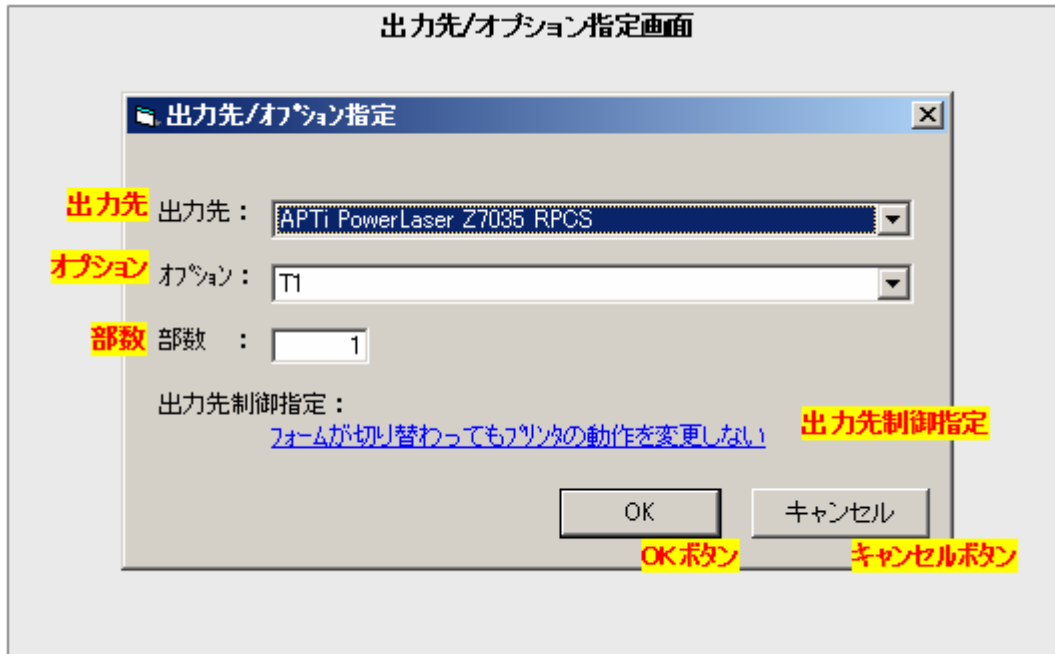
“[全てのファイルタイプのPDFファイル名書式に同じ設定を適用する]”	既存及び新規作成の全てのファイルタイプのPDFファイル名に以下の書式を適用します。拡張子“pdf”はファイルの作成時に自動付加されます。 [既定]をクリックすると、PDFファイル名設定画面が表示されるので、『3.8.8 PDFファイル名設定画面と操作方法』をご覧のうえ、設定をおこなってください。
“[ファイルタイプ毎に個別設定を適用する]”	ファイルタイプ毎にPDFファイル名の書式を指定します。指定は各ファイルタイプの設定画面でおこないます。本項目の設定時、既存のファイルタイプについては、現時点での設定がそのまま使用されますので必要に応じて変更してください。新規作成されたファイルタイプの初期設定は[既定]です。



PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option (別売) のバージョン 2.11以降が必要です。

3. 8. 4 出力先/オプション指定画面と操作方法

出力先/オプション指定画面では、出力先プリンターの指定とオプションの指定ができます。



出力先

出力するプリンターを指定します。

現在登録されている出力先の名前がリストされますので、希望するのを選択します。

なお、論理プリンターを使う設定となっているときは、論理プリンター名がリストされます。

オプション

出力時に使用するオプション内容を指定します。

出力先で指定したプリンターに対し、現在登録されたプリンターオプション名がリストされますので、希望するものを選択します。なお、論理プリンターを使う設定となっているときは、登録の有無に関係なく、常に”T1”から”T20”がリストされます。

部数

ジョブの、出力時のコピー部数を指定します。

コピーはページ単位でおこなわれ出力されます。ジョブ単位でのコピー出力はできません。

例. 3ページ(P1, P2, P3)のジョブに対して2部のコピーを指定した場合
→ 出力は(P1, P1, P2, P2, P3, P3)となります。

出力先制御指定

ジョブの、出力先プリンターに対する制御方法を指定します。
本テキスト部分をクリックすると、出力先制御指定画面が表示されますので、希望する出力先制御を指定します。

OKボタン

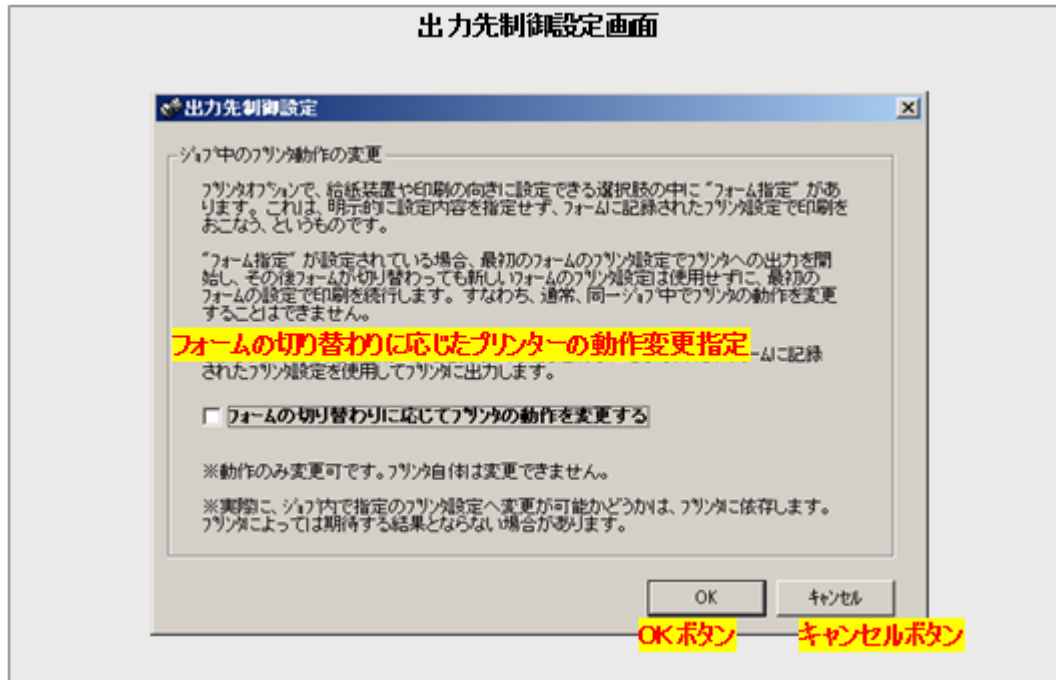
本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3. 8. 5 出力先制御設定画面と操作方法

出力先制御設定画面では、ジョブの印刷時の、出力先の制御に関する設定がおこなえます。



フォームの切り替わりに応じたプリンターの動作変更指定

ジョブの、出力先プリンターに対する制御方法を指定します。

指定可能な内容とその意味は以下のとおりです。

オン	本項目を指定すると、ジョブを通じて最初のフォームでの指定が使用されます。ジョブの出力途中でフォームの切り替えがあっても、[フォーム指定]が設定された項目に関する動作は切り替わりません。
オフ	本項目を指定すると、ジョブを通じてフォームの切り替えがあった場合、それに応じて[フォーム指定]が設定された項目に関する動作も切り替わりません。

例

2つのフォーム AとB が定義された、データ定義ファイルがあります。

データ定義ファイルで、Aでは用紙サイズとしてA4が、Bでは用紙サイズとしてB4が定義されています。

出力時にフォームAからBに切り替わるジョブがあり、このジョブでは、プリンターオプションの用紙サイズが[フォーム指定]に設定されているとします。

A(A4定義) → B(B4定義)

→このとき、本設定が“最初のフォームの値のみ使用”の場合、出力の用紙サイズは全てA4になります。

→このとき、本設定が“フォームの切り替えに応じて適用”の場合、出力の用紙サイズは、フォーム切り替わりのタイミングでA4からB4に替わります。

**注意**

プリンターによっては印刷途中での該当項目の設定変更を認めない場合があります。

OKボタン

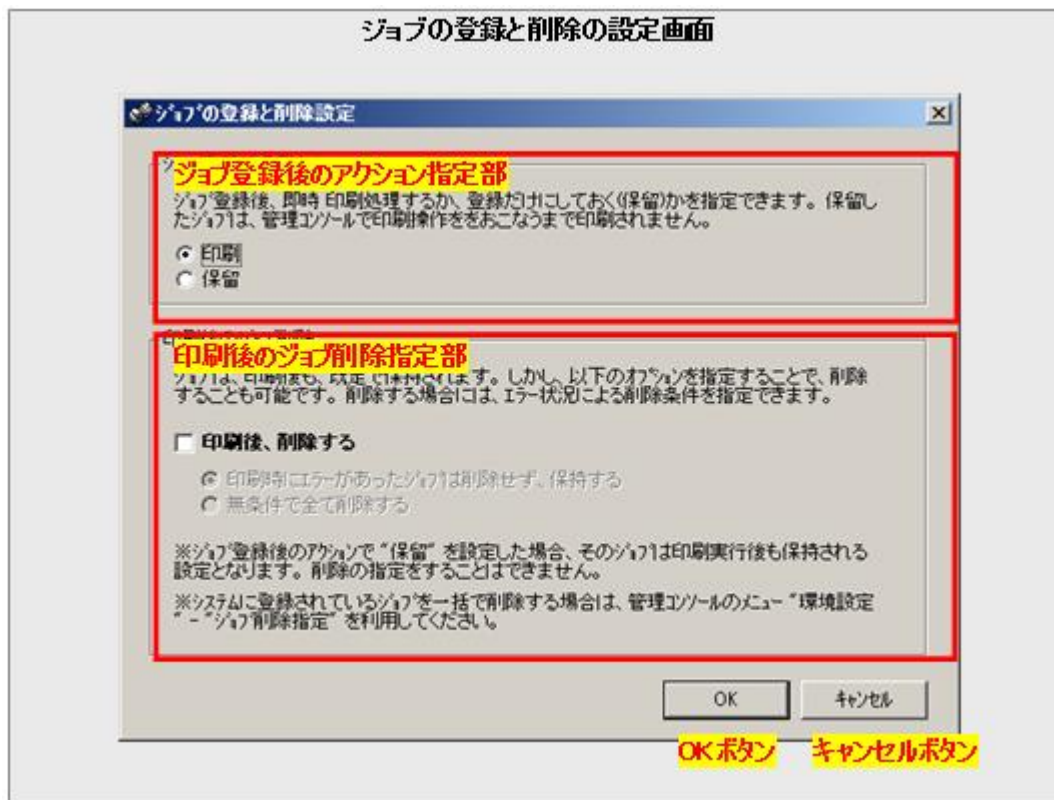
本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3. 8. 6 ジョブの登録と削除の設定画面と操作方法

ジョブの登録と削除の設定画面では、ジョブを登録後、即座印刷するかしないか、また、印刷後削除するかしないかの設定ができます。



ジョブ登録後のアクション指定部

フォルダー監視機能により、登録されたジョブの、最初のアクションを指定します。以下の2種類から指定できます。

“印刷”	ジョブ登録後、印刷処理をおこないます。
“保留”	ジョブ登録のみおこない、印刷はおこないません。 登録後、管理コンソールからの操作で印刷指示をだすことによって印刷されます。

印刷後のジョブ削除指定部

印刷されたジョブに対して、そのジョブを自動的に削除するかどうか、また削除する場合はその条件を指定します。以下の内容から指定可能です。

“印刷後、削除する”	印刷後、自動的にジョブを削除する場合、本チェックボックスをオンにします。 初期値はオフ(削除しない)です。
“印刷時にエラーがあった場合は削除せず、保持する”	印刷後削除する、を指定した場合のオプションで、そのジョブの印刷処理がエラーで終了した場合、削除せずに保持します。

“無条件で全て削除する”

印刷後削除する、を指定した場合のオプションで、そのジョブの印刷処理がエラーで終了したかどうかに関わらず削除します。

OKボタン

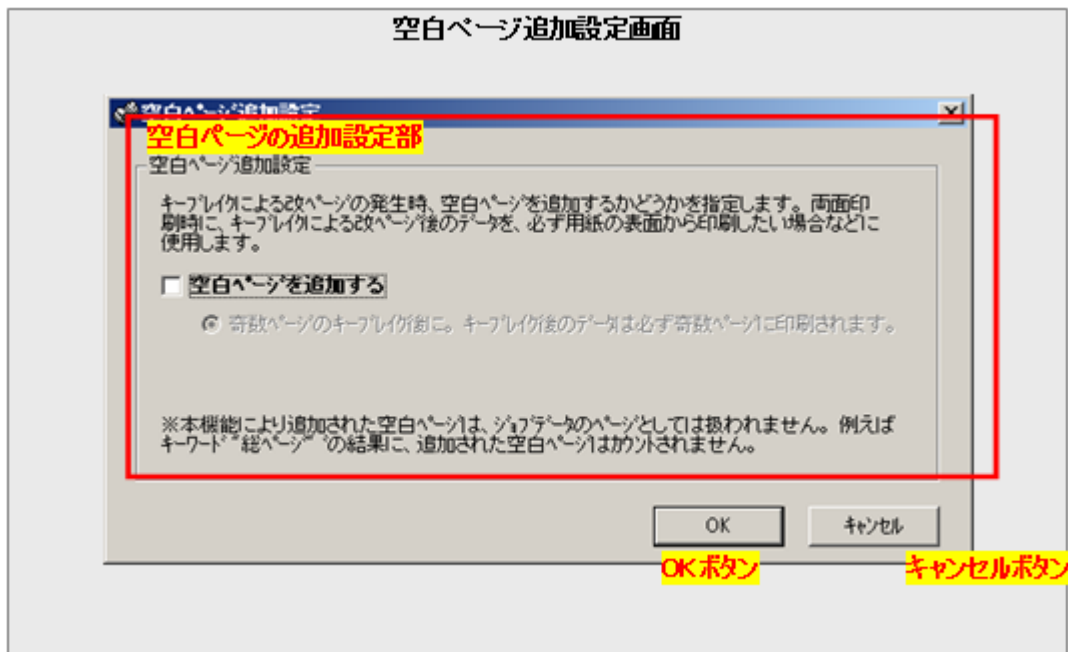
本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3. 8. 7 空白ページ追加設定画面と操作方法

空白ページ追加設定画面では、特定の条件により空白ページを挿入する機能の設定がおこなえます。



空白ページの追加設定部

空白ページを追加するかどうかと、その条件を指定します。

“空白ページを追加する”	空白ページ追加の機能を使うかどうかを指定します。オンにすると、空白ページの追加機能が有効になります。
“奇数ページのキーブレイク後に、キーブレイク後のデータは必ず奇数ページに印刷されます。”	奇数ページでキーブレイクが発生したとき、白紙ページを追加します。両面印刷をおこなってキーブレイク後のページを必ず用紙の表面に指定したい場合などに指定します。



- 追加された空白ページは、ジョブデータのページとしては扱われません。例えばキーワード“総ページ”の結果に追加された空白ページはカウントされません。
- ここでいう空白“ページ”は、本ソフトウェア処理上での“ページ”です。そのため、プリンタードライバーの割付印刷等の機能を使用した場合、期待する結果とならない場合があります。

OKボタン

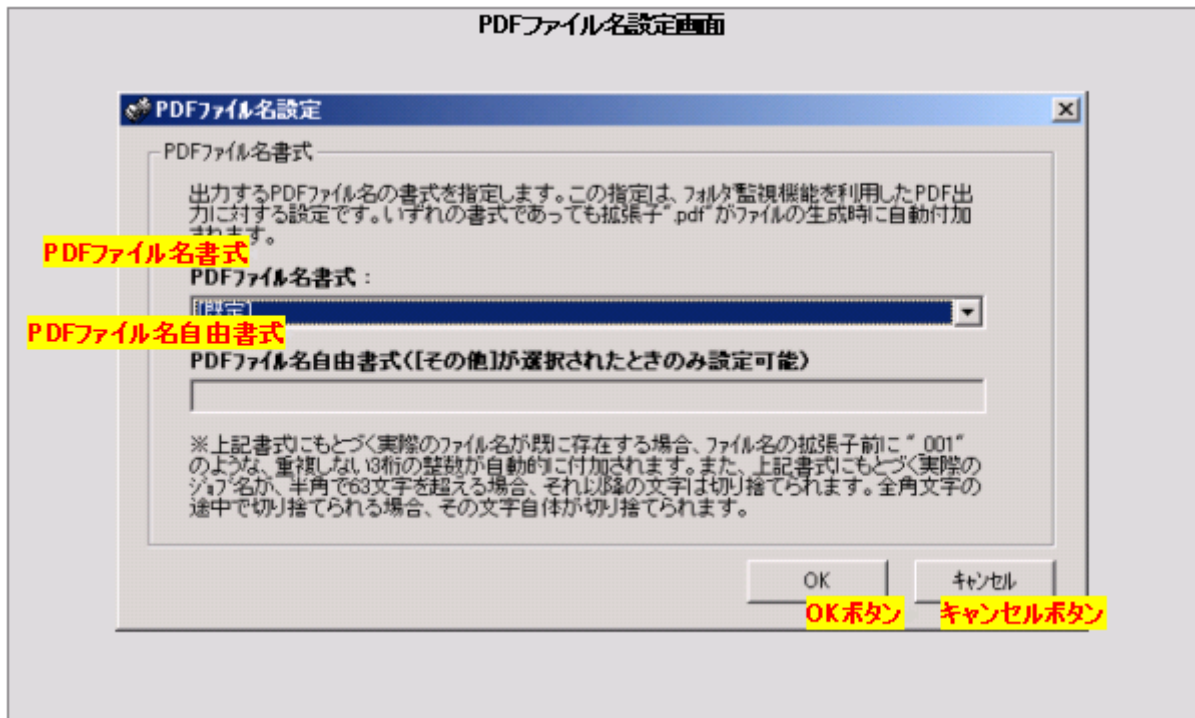
本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3. 8. 8 PDFファイル名設定画面と操作方法

PDFファイル名設定画面では、出力するPDFファイル名の書式の設定がおこなえます。



PDFファイル名書式

PDF出力をおこなう場合の、PDFファイル名を指定します。指定は選択式で、以下の内容から選択できます。

"[既定]"	本システムによって決定される既定の名前を使用します。
"[フォーム定義ファイル名(拡張子無)]"	ジョブに使用されるフォーム定義ファイル/データ定義ファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。
"[投入ファイル名(拡張子無)]"	投入されたファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。
"[その他]"	"PDFファイル名自由書式"で指定した書式に従って名前が決定されます。



PDFファイルへの出力をおこなう場合、PrintPro for PDF Option (別売) のバージョン 2.11以降が必要です。

PDFファイル名自由書式

[PDFファイル名書式]で、[その他]が指定された場合のみ有効な設定で、PDF出力をおこなう場合のPDFファイル名を、ユーザーが記述式で自由に指定することができます。

この記述の書式は以下のとおりです。

基本的に文字列と予約語とよばれる事前キーワードの組み合わせによって指定します。

例

“請求書”+[投入ファイル名(拡張子無)]

このとき、投入ファイル名が
200804.株式会社ABC.csv
であれば、最終的なPDFのファイル名は
請求書200804.株式会社ABC.pdf
になります。

ダブルクォーテーションで囲まれた部分(請求書)が文字列、大括弧で囲まれた部分(投入ファイル名(拡張子無))が予約語になります。展開後の拡張子.pdfは、本記述での指定に関係なく付加されます。

複数の文字列、複数の予約語を組み合わせることも可能です。組み合わせる場合、上記のように各項目を半角のプラス(+)記号で結びます。なお、この前後に空白文字を入れることは認められていません。

誤った例 プラスの前後に空白文字がある。

“請求書” + [投入ファイル名(拡張子無)]

正しい例 プラスの前後に空白文字があってはならない

“請求書”+[投入ファイル名(拡張子無)]

文字列には、以下の文字をのぞく任意の文字を使用可能で、ダブルクォーテーションで囲みます。

カンマ(,) 左大括弧([) 右大括弧(]) 空白 ダブルクォーテーション(“) プラス(+)

※いずれも半角文字のみ使用不可。

予約語の種類とその意味は以下のとおりです。

[既定]	本システムによって決定される既定の名前に展開されます。
[フォーム定義ファイル名(拡張子無)]	ジョブに使用されるフォーム定義ファイル/データ定義ファイル名から拡張子を除いた名前に展開されます。
[投入ファイル名(拡張子無)]	投入されたファイル名から拡張子を除いた名前を使用します。
[登録年月日]	ジョブの登録された年月日に展開されます。アラビア数字で4桁の西暦、2桁の月、2桁の日が並んだ形になります。 2008年12月9日に登録されたジョブであれば 20081209 となります。
[データ定義項目番号] ※データ定義項目番号には、実際には番号を指定します。半角の数字で指定します。 例[3], [46]など。	大括弧の中でデータ定義項目の番号を指定して、実際の投入されたデータの内容をファイル名に使用します。 使用される実際のデータは、見出し行ではない最初のレコードのデータです。 該当するデータ定義項目が数値型/演算型等で、なんらかの式を伴っていてもそれは無視されます。完全に実際のデータがそのまま使用されます。

以下、いくつか例を示します。

例1.

投入ファイル名が 株式会社ABC.csv,
ジョブの登録日が2008年2月22日とする。

対する自由書式が
“納品書_”+[登録年月日]+”_”+[投入ファイル名(拡張子無)]
の場合。
生成されるPDFファイル名は
納品書_20080222_株式会社ABC.pdf

例2.

データ定義ファイル名が請求書.def,
データ定義項目の3番目は顧客番号で、実際のデータは”01234”
データ定義項目の4番目は請求月で実際のデータは”2008年12月”
とする。

対する自由書式が
[フォーム定義ファイル名(拡張子無)]+_顧客番号”+[3]+”_請求月”+[4]
の場合。
生成されるPDFファイル名は
請求書_顧客番号0123_請求月2008年12月.pdf

他、以下の規則を持ちます。

- ・文字列内で以下の文字を使うことはできません。
カンマ(,) 左大括弧([) 右大括弧(]) 空白 ダブルクォーテーション(“) プラス(+)
※いずれも半角文字のみ
- ・プラスの前後に不要な空白文字を入れることはできません。
- ・予約語の大括弧の前後に不要な空白文字を入れることはできません。
- ・書式の指定そのものは、半角文字換算で259文字以内である必要があります。
- ・処理結果のファイル名にWindowsのファイルシステムで利用不可能な文字があった場合、それらはアンダースコアに置き換えられます。
- ・処理結果のファイル名がSHIFT-JIS換算で63バイトをこえる場合、それ以降の文字は切り捨てられます。全角文字の途中でできりすてられた場合、その文字自体が切り捨てられます。
- ・処理結果のファイル名の前後に空白文字がある場合、その空白文字は除去されます。
- ・処理結果のファイル名と同名のファイルが既に存在する場合、重複をさけるため、末尾にアンダースコアと3桁の整数が自動的に付加されます。
- ・予約語[データ定義項目番号]に対して、投入されたファイルに該当するデータが提供されていない場合、この指定は無視されます。
- ・予約語[データ定義項目番号]に対して、展開される内容は、実際のデータそのままです。該当するデータ定義項目になんらかの式が指定されている場合、その式は無視されます。
- ・自由書式の指定に誤りがある場合、その処理結果は、ファイルが生成されずエラーとなるか、または既定のファイル名が適用されて生成されるかのいずれかになります。

OKボタン

本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3.9 環境設定

本製品の、以下の動作に関する設定の、画面と操作方法を説明します。

- ・ジョブのスケジュール削除
- ・プリンターの監視(ステータス取得)間隔
- ・論理プリンター機能の使用

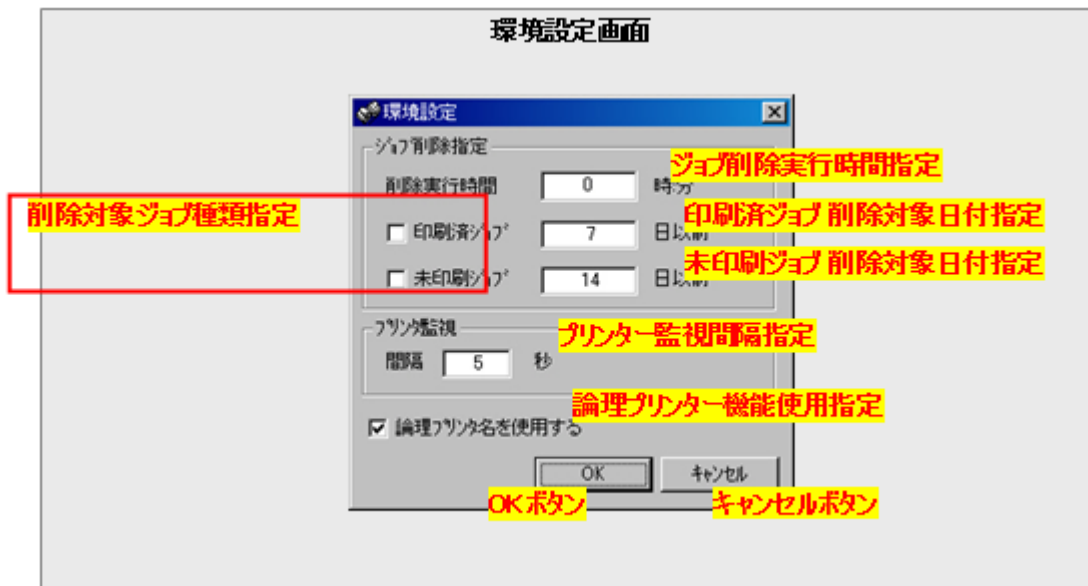


保存されているジョブは最大で50000ジョブ程度になるように、ジョブの削除設定をおこなってください。保存されているジョブが大量になると、本製品に負荷がかかり動作に影響を与える場合があります。

3.9.1 環境設定画面と操作方法

管理コンソールの[設定] - [環境] にて以下の画面が表示されます。

共通設定画面では、ファイル監視機能における、共通の設定内容を設定できます。



ジョブ削除実行時間指定

ジョブのスケジュール削除で、削除をおこなう時間を指定します。
本システムは、毎日、指定された時間にジョブの削除を実行します。
指定は、24時間表記で、以下の形式で指定します。

HH:MM

例1:
"9:55"と設定
→ 9時55分にジョブの削除を実行

例2:
"21:55"と設定
→ 21時55分にジョブの削除を実行

削除対象ジョブ種類指定

ジョブのスケジュール削除で、削除の対象とするジョブの種類を指定します。
以下の2種類のジョブについて、その削除の対象とする/しないを、それぞれ設定します。

"印刷済ジョブ"	一度以上印刷処理が完了しているジョブです。
"未印刷ジョブ"	一度も印刷処理が実行されていないジョブです。 保留となっているジョブ、印刷処理がエラーで終了したジョブが含まれます。

スケジュールによる削除の対象とする場合に、チェックボックスをオンにします。

印刷済ジョブ 削除対象日付指定

印刷済ジョブがスケジュール削除の対象となっている場合に、“何日前に印刷済みとなったジョブ”を削除するかを指定します。

指定は日単位でおこないます。

ただし、1日前が計算の起点になります。たとえば、“0”を指定した場合、今日が11月25日なら、削除対象となるのは11月24日に印刷済みとなったジョブです。“1”を指定した場合であれば、11月23日に印刷済みとなったジョブです。

未印刷ジョブ 削除対象日付指定

未印刷ジョブがスケジュール削除の対象となっている場合に、“何日前に未印刷となったジョブ”を削除するかを指定します。

指定方法は、「印刷済ジョブ 削除対象日付指定」と同様です。

プリンター監視間隔指定

管理コンソール上の、プリンターのステータス(アイコン)の更新間隔を指定します。
秒単位で、2～60まで指定可能です。

論理プリンター機能使用指定

論理プリンター機能を使用するかどうかを指定します。
チェックボックスをオンにすると、論理プリンター機能を使用します。
『3.7 論理プリンターの設定』もご覧ください。

OKボタン

本設定画面での設定内容を保存して、画面を閉じます。

キャンセルボタン

本設定画面での設定内容を保存せず、画面を閉じます。

3.10 ターミナルサービス環境下でのご利用

本製品のサーバー側プログラムは、以下のターミナルサービス環境下でご利用いただけます。

Windows 2000 Server にバンドルされているターミナルサービス

Windows Server 2003 にバンドルされているターミナルサービス

Windows Server 2008 にバンドルされているターミナルサービス

ターミナルサービス環境下では、以下の動作となります。

本システムは、全セッションを通してただ1つのみ起動可能です。複数のターミナルサービスクライアントから起動することはできません（エラーメッセージが表示されます）。

以下の手順でインストールおよび利用します。

1. ターミナルサービスが動作しているサーバー上にサーバー側プログラムをインストールします。インストールは管理者権限でおこないます。
2. 管理者権限を持つターミナルサービスクライアントから、通常と同じように利用できます。



- ・上記ターミナルサービス以外の、サードパーティ製ターミナルサービスでの動作はおこなえません。
- ・本プログラムに、ターミナルサービス自体を利用するためのライセンスは含まれておりません。別途ユーザー様でご用意ください。
- ・使用するプリンタードライバーがターミナルサービスに対応していることが必要です。ご使用のプリンターメーカーのホームページやお客様サポートにてご確認ください。

3.11 排紙完了ステータスの取得

以下のプリンター機種では、ジョブの印刷にあたり、実際にプリンター上での排紙が完了したかどうかまで監視することができます。

この排紙完了ステータスの取得をサポートする機種は以下のとおりです。

Ricoh製品
Ricoh ソフトウェア “Ridoc IO Navi” がサポートする機種。
同ソフトウェアがサポートする機種については、Ricoh様ホームページ(<http://www.ricoh.co.jp/>)にてご確認ください。

これらの機種の場合、ポートを以下のように設定することで排紙完了のステータスを取得できます。



ポートの設定については『3.1.2 ステータス取得に関する設定画面と操作方法』を参照してください。

排紙完了のステータスは、管理コンソールより確認できます。



実際の排紙完了のステータスの確認方法については、こちらを参照してください(⇒『3.3.1 - ジョブ情報表示部』)。



注意

“Ridoc IO Navi” は、ターミナルサービスでの利用をサポートしていません。

3.12 64ビット環境での動作について

本製品は64ビット環境でご利用いただけます。サポートされる64ビットOSは以下のとおりです。

サーバー側プログラム	Windows Server 2008R2 (64bit)
クライアント側プログラム	Windows 7 (64bit)

インストールを含めた全ての操作について、32ビット環境/64ビット環境とも全く同様にご利用頂けますが、既定のインストールパスが以下のように異なりますのでご注意ください。

32ビットOS環境での利用	C:\Program Files\PrintPro Server 2.0
64ビットOS環境での利用	C:\Program Files (x86)\PrintPro Server 2.0



これはWindows上の”WOW64”と呼ばれる機構によるものです。

64ビットOSにおいては、*Program Files*フォルダが64ビットプログラム用(“Program Files”)と32ビット用(“Program Files (x86)”)の2つ用意されます。本製品は32ビットプログラムとして動作するため、“Program Files (x86)”フォルダに格納されます。

“WOW64”の詳細につきましては、マイクロソフト社のサイトをご確認ください。

3.13 設定のエクスポート/インポートツール



本トピックはバージョン 1.3.1以降のみ有効です。

本製品には、環境の移動などのために、設定をファイルとしてエクスポート/インポートするツールが付属します。

この設定のエクスポート/インポートツールは、以下の場所に配置されています。

スタートメニューには登録されませんので、エクスプローラーで該当の場所を展開のうえ、ダブルクリックで実行してください。

ツールの場所	(本製品のインストールディレクトリ)¥tools¥ppssetup.exe
--------	---------------------------------------

エクスポートおよびインポートの結果ログは、上記ツールの画面上に表示されるほか、以下の場所にも保管されます。

結果ログの場所	(本製品のインストールディレクトリ)¥log¥(日付).export.log (本製品のインストールディレクトリ)¥log¥(日付).import.log
---------	--

3. 13. 1 エクスポート

エクスポートは、本製品の複数の設定ファイルをアーカイブし単一のファイルとして生成します。
このファイルは、別のマシン上の本製品でインポートし、そのまま利用することができます。



エクスポート/インポートツールは、バージョン1.3.1以降の環境についてご利用できます。
インポート先の製品バージョンは、エクスポート元の製品バージョン以上である必要があります。

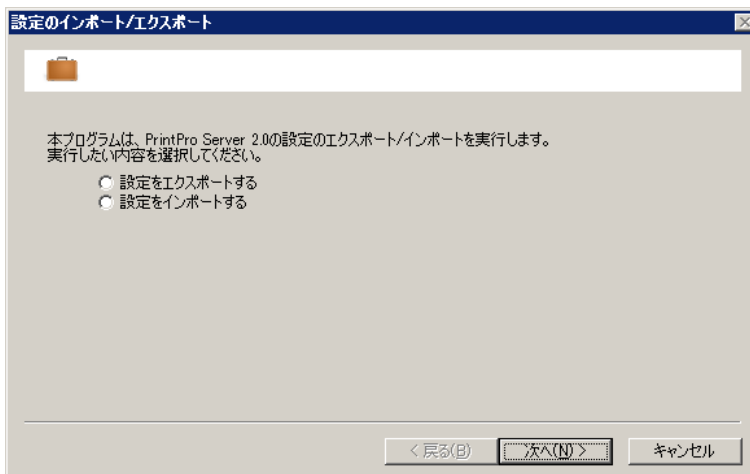


本ツールはPrintPro Server 2.0の設定ファイル(登録された監視フォルダ、ファイルタイプ、プリンタ情報、その他環境設定情報)をエクスポート/インポートするツールです。
Windowsプリンターや監視フォルダそのものや、DEFファイル、ジョブの履歴、PrintPro for PDF Optionとの連携環境などは、エクスポート元と同様、作成する必要があります。

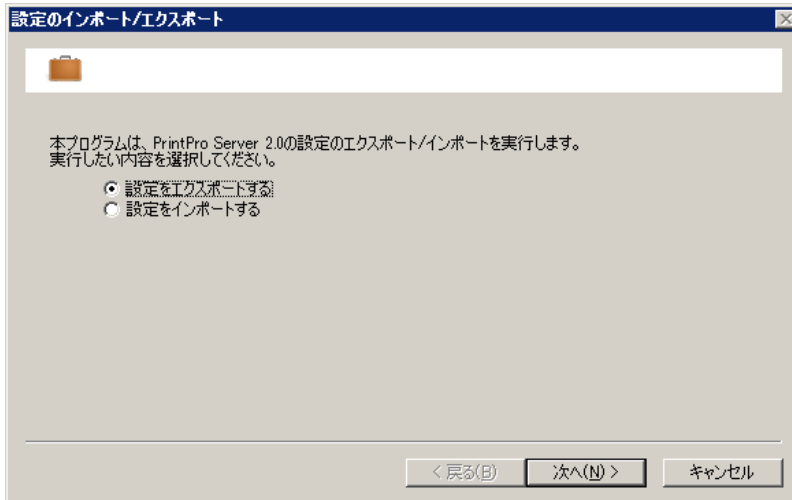
1. ツールをダブルクリックして実行します。

ツールの場所

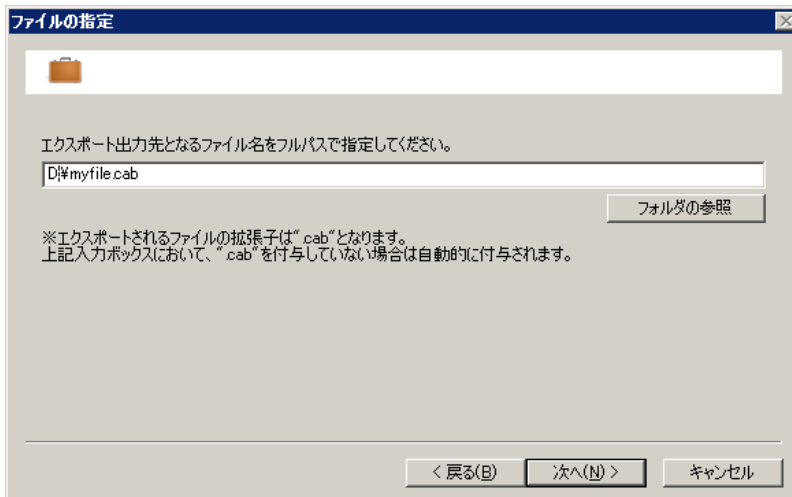
(本製品のインストールディレクトリ)¥tools¥ppsssetup.exe



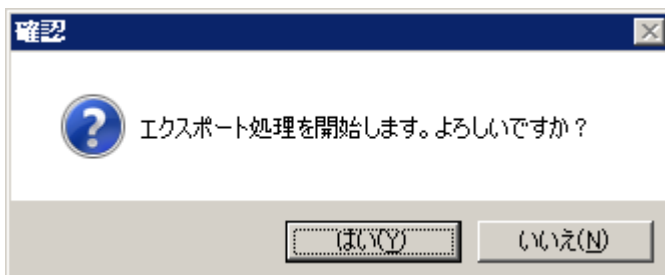
2. “設定をエクスポートする”を選択し、“次へ”をクリックします。



3. エクスポート先となるファイル名を指定します。
指定はフルパスでおこないます。“次へ”をクリックします。

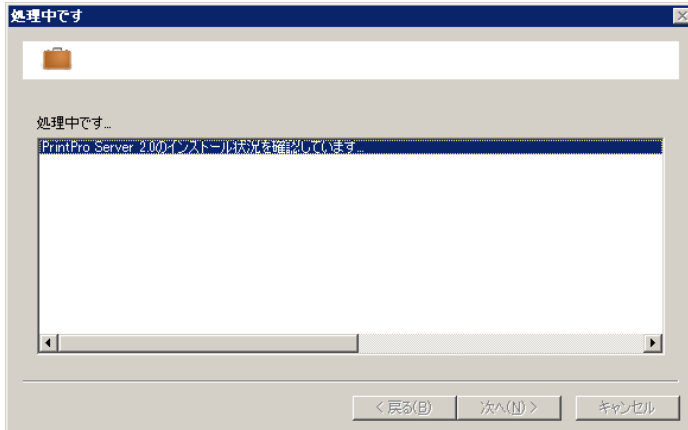


4. 確認用のメッセージが表示されます。問題なければ“はい”をクリックします。



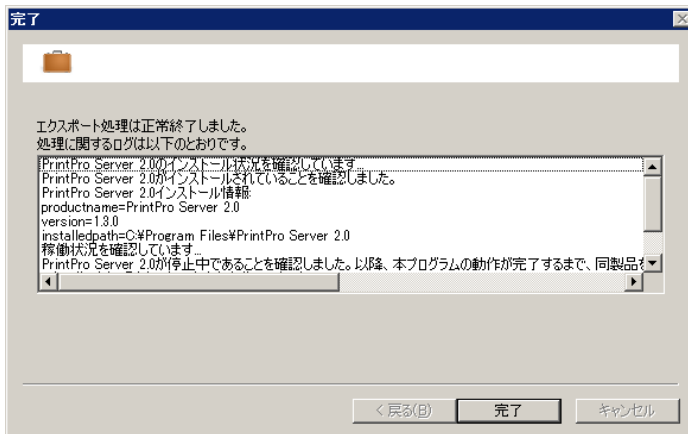
5. 処理が実行されます。

処理過程が表示されます。処理が終了したら“次へ”をクリックします。



6. 最終画面です。

内容を確認し、“完了”をクリックします。



エクスポートされたファイルはCABフォーマットですが、この中身を改変することはできません。改変した場合、そのファイルはインポート時にエラーとなります。

3. 13. 2 インポート

インポートは、エクスポートされたファイルの本製品の設定として取り込みます。



注意

エクスポート/インポートツールは、バージョン1.3.1以降の環境についてご利用できます。インポート先の製品バージョンは、エクスポート元の製品バージョン以上である必要があります。



注意

本ツールはPrintPro Server 2.0の設定ファイル(登録された監視フォルダ、ファイルタイプ、プリンタ情報、その他環境設定情報)をエクスポート/インポートするツールです。Windowsプリンターや監視フォルダそのものや、DEFファイル、ジョブの履歴、PrintPro for PDF Optionとの連携環境などは、エクスポート元と同様、作成する必要があります。



注意

エクスポートされたファイルはCABフォーマットですが、この中身を改変することはできません。改変した場合、そのファイルはインポート時にエラーとなります。

なお、インポート処理をおこなった場合、インポート前の設定ファイルは、以下のフォルダを作成の上バックアップされます。インポート処理が正常に終了したことを確認の上、必要に応じて削除してください。

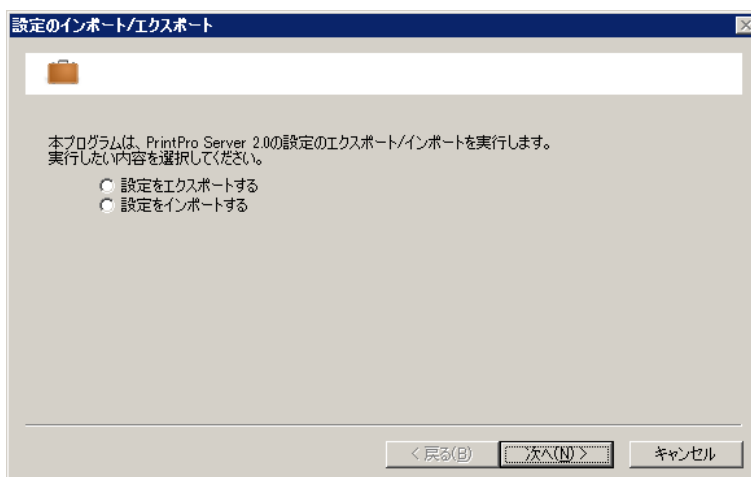
バックアップの場所

(本製品のインストールディレクトリ)¥setup.importbackup.(日付)

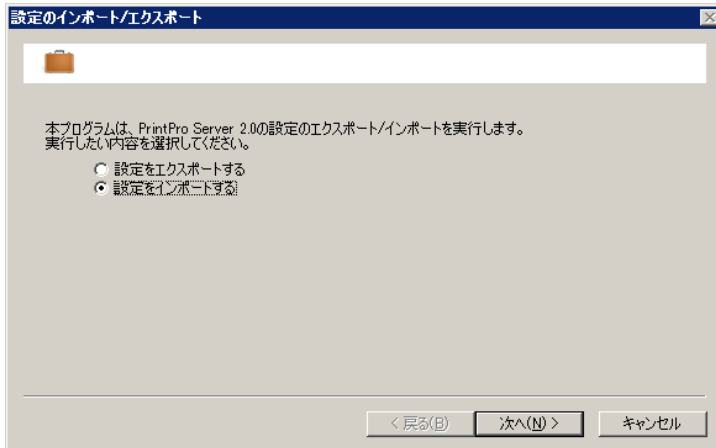
1. ツールをダブルクリックして実行します。

ツールの場所

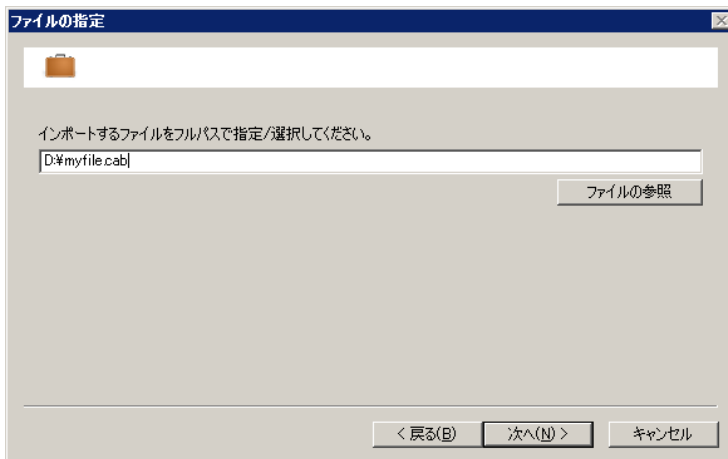
(本製品のインストールディレクトリ)¥tools¥ppssetup.exe



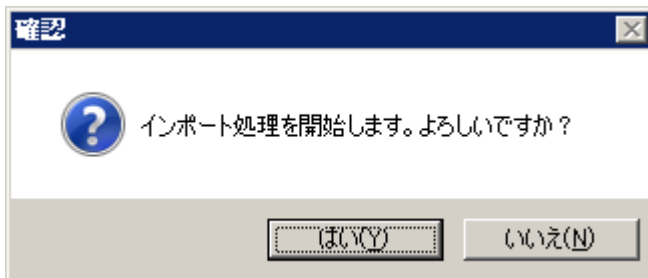
2. “設定をインポートする”を選択し、“次へ”をクリックします。



3. インポートするファイルを指定し、“次へ”をクリックします。

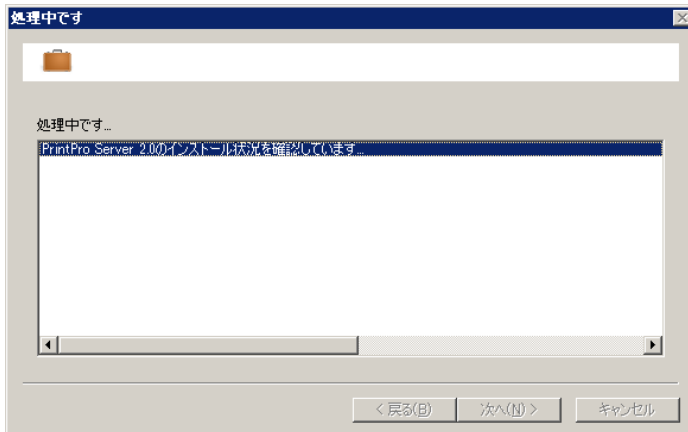


4. 確認用のメッセージが表示されます。問題なければ“はい”をクリックします。



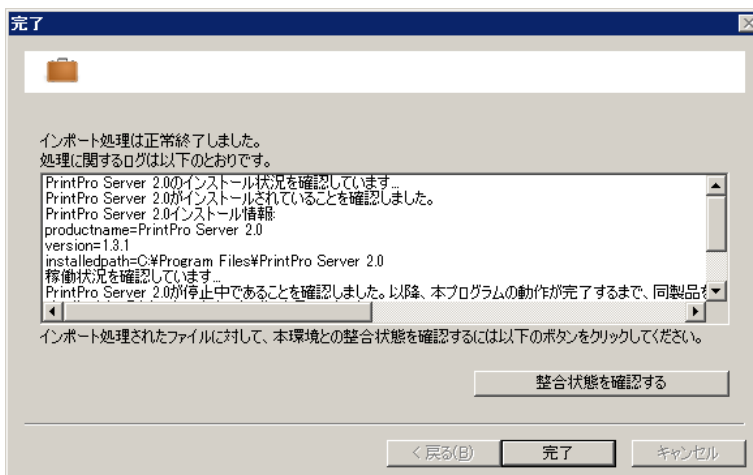
5. 処理が実行されます。

処理過程が表示されます。処理が終了したら“次へ”をクリックします。

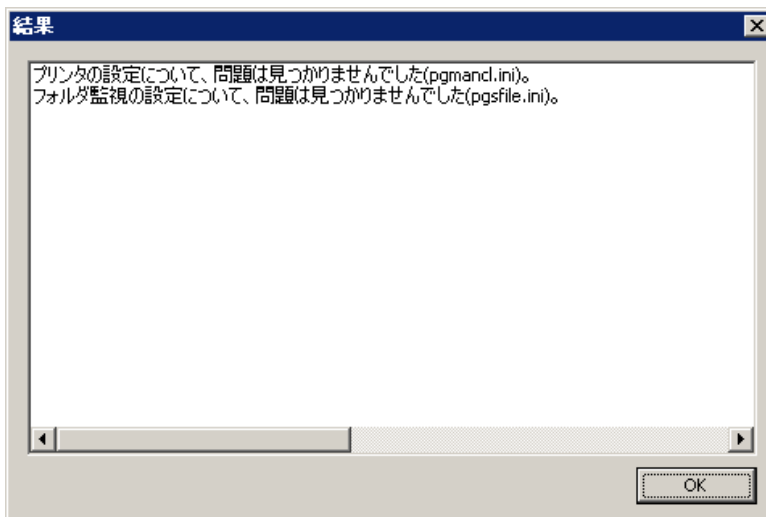


6. 完了メッセージが表示されます。

内容を確認してください。



“整合状態を確認する”のボタンをクリックすると、インポートされた設定と現在の環境に対する整合性を確認することができます。





設定が正常にインポートされていることをご確認ください。

3.14 ログ出力

システム動作中、ジョブ登録状況、印刷経過・結果、エラー発生時の内容等ログファイルに記録されます。

■ログファイル名: pgs.log (導入フォルダー¥log¥に作成されます。)

ログファイルのサイズが5Mbyteを超えると、フォルダー内で一意のファイル名にリネームされ、pgs.logの内容はクリアされログの記録が続けられます。

■ログ記録タイミング

- 1)ジョブ管理プログラムの起動/停止
- 2)ファイル監視プログラムの起動/停止
- 3)クライアント接続プログラムの起動/停止
- 4)ジョブ登録状況
- 5)ファイル削除(ファイル監視)
- 6)印刷(PDF作成)実行開始/終了
- 7)ジョブ再印刷/削除

詳細

<ジョブ登録>

共通	日付け	YYY/MM/DD
	時間	HH:MM:SS
ジョブ登録	状況	1: 登録完了 2: 登録エラー 3: 監視終了
	ステータス1	1: 登録方法 ※1 2: エラーコード ※2 3: 登録方法 ※1
	ステータス2	1: 0 2: デバイスステータス ※3 3: デバイスステータス ※3
	ジョブNo	
	ジョブ名	
	ユーザー名	
	コンピューター名	
	出力先名	
	オプション名	
	データ定義名	

※1 ジョブ登録方法

- 0: 印刷
- 1: 印刷後削除(エラー時保持)
- 2: 印刷後削除(エラー時保持しない)
- 3: 保留

※2 エラーコード

- 6: ジョブデータがオープンできません。

- 7: データがスプールできません。
- 9: コントロールがスプールできません。
- 12: これ以上、JOB操作が登録できません。
- 16: JOB操作待ち行列にアクセスできません。
- 24: JOBデータが読み込めません。

※3 デバイスステータス

- 10: 印刷不可
- 11: 用紙切れ
- 15: 用紙ジャム
- 12: カバーオープン
- 13: トナーなし
- 14: ウォーミングアップ中
- 30: 監視タイムアウト、電源オフ
- 31: エラー

<ジョブ管理>

共通	日付け	YYY/MM/DD
	時間	HH:MM:SS
ジョブ印刷	状況	1: ジョブ管理プログラム開始 2: ジョブ管理プログラム終了 3: 印刷開始 4: 印刷終了
	ステータス1	1: エラーコード ※1 2: エラーコード ※1 3: スレッドNo. 4: エラーコード ※2
	ステータス2	1: 0 2: 0 3: 0 4: デバイスステータス ※3
	ジョブNo	
	ジョブ名	
	ユーザー名	
	コンピューター名	
	出力先名	
	オプション名	
	データ定義名	

※1 エラーコード

- 1: 同期オブジェクトが作成できません。
- 3: イベントが作成できません。
- 4: 共有メモリーが獲得できません。
- 5: 共有メモリーが獲得できません。
- 6: formprsv.dllがロードできません。
- 7: formprsv.dll API関数アドレスが取得できません。
- 8: _AJMIoCo.dllがロードできません。
- 9: _AJMIoCo.dll API関数アドレスが取得できません。
- 10: _AJMIoCo.dllの 使用開始宣言関数失敗。
- 11: _AJMGetS.dll がロードできません。
- 12: _AJMGetS.dll API関数アドレスが取得できません。
- 13: _AJMGetS.dllの 使用開始宣言関数失敗。

※2 エラーコード

- 1:ジョブデータがオープンできません。
- 2:コントロールデータがオープンできません。
- 7:ジョブは削除済です。

・印刷出力 -----

- 3:プリンター情報が取得できません。(出力先指定エラー)
- 4:デバイスエラーが発生しました。(印刷できません。)
- 5:印刷に失敗しました。(FormPrintOutServer)
- 6:プリンターステータスの取得に失敗しました。
- 9:ページ指定エラー
- 10:印刷が中断されました。
- 11:プリンターにデータ転送中エラーが発生しました。
- 12:スプールファイルの作成に失敗しました。
- 101:印刷ドライバーロードエラー(ppwindrv.dll)
- 103:データ定義ファイルがオープンできません。
- 106:指定されたフォームが存在しません。
- 107:指定されたフォームが存在しません。
- 108:印刷データがありません。
- 109:メモリーが足りません。(データ用)
- 111:印刷に失敗しました。

・PDF生成 -----

- 3:PDF生成クラスが動作できません。(出力先指定エラー)
- 4:デバイスエラーが発生しました。(印刷できません。)
- <-10:PDFオプションエラー値 * -1

※3 デバイスステータス

- 10:印刷不可
- 11:用紙切れ
- 15:用紙ジャム
- 12:カバーオープン
- 13:トナーなし
- 14:ウォーミングアップ中
- 30:監視タイムアウト、電源オフ
- 31:エラー

<ファイル監視>

共通	日付け	YYY/MM/DD
ファイル監視	状況	1:ファイル監視プログラム開始 2:ファイル監視プログラム終了 3:ファイル監視(フォルダー番号):削除-ファイル名
	ステータス1	1:エラーコード ※1 2:エラーコード ※1 3:エラーコード ※2
	ステータス2	1:0 2:0 3:0
	ジョブNo	
	ジョブ名	
	ユーザー名	
	コンピューター名	
	出力先名	
	オプション名	
	データ定義名	

※1 エラーコード

- 1:同期オブジェクトが作成できません。
- 3:イベントが作成できません。
- 6:pgfsjobr.dllがロードできません。
- 7:pgfsjobr.dll API関数アドレスが取得できません。
- 8:pgfsjobr.dllのInitPgfsJobr関数のコールに失敗しました。
- 11:監視フォルダーの情報を読み込めません。

※2 エラーコード

- 0:ファイル削除成功。
- 1:ファイル削除失敗。

<ジョブ操作>

共通	日付け	YYY/MM/DD
ジョブ操作	状況	1:操作(印刷) 再印刷 2:操作(削除) 3:操作 4:操作エラー
	ステータス1	1:エラーコード ※1 2:エラーコード ※2 3:0 4:エラーコード ※3
	ステータス2	1:0 2:0 3:コマンド 4:コマンド
	ジョブNo	
	ジョブ名	
	ユーザー名	
	コンピューター名	
	出力先名	
	オプション名	
	データ定義名	

※1 エラーコード

- 1:ジョブデータがオープンできません。
- 2:ジョブデータが読み込めません。
- 3:コントロールデータがオープンできません。
- 4:JOB操作待ち行列にアクセスできません。
- 5:これ以上、JOB操作が登録できません。

※2 エラーコード

- 1:ジョブデータがオープンできません。
- 2:ジョブデータが読み込めません。

※3 エラーコード

- 4:JOB操作待ち行列にアクセスできません。
- 5:これ以上、JOB操作が登録できません。

<クライアント接続>

共通	日付け	YYY/MM/DD
----	-----	-----------

クライアント接続	状況	1:クライアント接続プログラム開始 2:クライアント接続プログラム終了 3:クライアント接続 4:クライアント切断
	ステータス1	1:エラーコード ※1 2:エラーコード ※1 3、4:0=成功 1=失敗
	ステータス2	1:0 2:0 3、4:接続 ID
	ジョブNo	
	ジョブ名	
	ユーザー名	
	コンピューター名	
	出力先名	
	オプション名	
	データ定義名	

※1 エラーコード

- 1:同期オブジェクトが作成できません。
- 2:共有メモリーが獲得できません。
- 3:イベントが作成できません。
- 4:Winsockイニシャライズエラーが発生しました。
- 5:スレッド停止イベントが作成できません。
- 6:socketが作成できません。
- 7:bindエラーが発生しました。
- 8:listenエラーが発生しました。
- 9:スレッド起動エラーが発生しました。

3.15 API

お客様作成のアプリケーションプログラムから、APIを呼び出すことにより印刷ジョブの登録をおこなうことができます。登録された印刷ジョブは本製品により印刷管理することができます。



本プログラムは32ビットプログラムです。そのため、64ビットプログラムから本APIを呼び出すことはできません。

PGJOBDI, *PPGJOBDI

概要

ジョブのデータを保持する構造体です。GetJobData() APIとともに使われます。

シグネチャー

```
typedef struct JobData_item {
```

DWORD	<i>no ;</i>	ジョブ番号
SYSTEMTIME	<i>regtime ;</i>	登録日時
SYSTEMTIME	<i>outtime ;</i>	最終出力日時
int	<i>jobstatus ;</i>	ジョブステータス -1: 削除 0: 印刷済(データ転送完了) 1: 印刷待ち 2: 印刷中 3: 保留中 4: 中断 6: デバイスエラー 7: 出力指定エラー 8: システムエラー 100: 印刷済(排紙完了)
int	<i>fdelete ;</i>	削除指定 0: なし 1: 印刷後削除(エラー時保持) 2: 印刷後削除(エラー時保持しない)
char	<i>jobname[64] ;</i>	ジョブ名
char	<i>username[32] ;</i>	ユーザー名
char	<i>computername[32] ;</i>	コンピューター名
char	<i>defname[128] ;</i>	データ定義ファイル名
char	<i>outputname[64] ;</i>	出力先名
char	<i>outputoption[128] ;</i>	出力オプション

int	<i>outputstatus ;</i>	出力デバイスステータス <ul style="list-style-type: none"> ・正常終了 0: 未印刷 1: 印刷開始 2: スプール完了 3: 転送完了 4: 印刷完了 ・回復可能エラー 10: オフライン 11: 用紙切れ 12: カバーオープン 13: トナー切れ 14: ウォーミングアップ中 15: 用紙ジャム ・回復不能エラー 30: 電源オフ 31: 回復不能エラー 32: タイムアウト
int	<i>nprint ;</i>	印刷回数

} PGJOBDI, *PPJOBDI

その他

なし。

CompPgfsJobr

概要

pgfsjobr.dllの使用を終了します。

エクスポートDLL名

pgfsjobr.dll

シグネチャー

int APIENTRY CompPgfsJobr (

void

)

引数

なし。

戻り値

int型の値が戻ります。

値の内容を意味は以下のとおりです。

値	内容
0	正常終了
0以外	初期化失敗

その他

pgfsjobr.dllを使用するプロセスは、pgfsjobr.dllの使用を終了しアンロードする前に、一度だけ、必ずこの関数をコールしなければなりません。この関数は、pgfsjobr.dllを使用終了処理を実行します。

InitPgfsJobr

概要

pgfsjobr.dllを初期化し、使用可能とします。

エクスポートDLL名

pgfsjobr.dll

シグネチャー

```
int APIENTRY InitPgfsJobr (
```

```
void
```

```
)
```

引数

なし。

戻り値

int型の値が戻ります。

値の内容を意味は以下のとおりです。

値	内容
0	正常終了
0以外	初期化失敗

その他

pgfsjobr.dllを使用するプロセスは、pgfsjobr.dllがエクスポートする他の関数を使用する前に、一度だけ、必ずこの関数をコールしなければなりません。この関数は、pgfsjobr.dllを初期化し、他の関数を使用可能とします。この関数が失敗した場合、他の関数をコールしないでください。

GetJobData

概要

登録ジョブの状態を取得します。

エクスポートDLL名

pgfsjobr.dll

シグネチャー

int APIENTRY GetJobData (

DWORD	<i>jobno</i> ,	ジョブ番号
PGJOBDI*	<i>jobdata</i>	ジョブデータ

)

引数

jobno

ジョブ登録時に返されたジョブ番号を指定します。

jobdata

ジョブデータをうけとるPGJOBDI型のメモリーブロックのアドレスを指定します。

戻り値

int型の値が戻ります。

値の内容を意味は以下のとおりです。

値	内容
1	指定されたジョブは削除され、残っていません
0	正常終了
-1	ジョブデータがオープンできません
-2	ジョブ番号が大きすぎます
-3	ファイル読み込みエラー

その他

なし。

PrintProJobControl

概要

ジョブの登録をおこないます。

エクスポートDLL名

pgfsjobr.dll

シグネチャー

int APIENTRY PrintProJobControl (

DWORD*	<i>jobno ,</i>	ジョブ番号
LPSTR	<i>jobname ,</i>	ジョブ名
LPSTR	<i>username ,</i>	ユーザー名
LPSTR	<i>computername ,</i>	コンピューター名
LPSTR	<i>outputname ,</i>	出力先名
LPSTR	<i>outputoption ,</i>	出力オプション名
int	<i>jobcontrol ,</i>	ジョブ登録方法
int	<i>watchlevel ,</i>	監視期間
int	<i>timeout ,</i>	監視タイムアウト
int	<i>datatype ,</i>	データタイプ
LPSTR	<i>data ,</i>	データ
LPSTR	<i>defname ,</i>	データ定義ファイル名
int	<i>selectform ,</i>	フォーム番号
int	<i>defprinter ,</i>	予約済
int	<i>formsetmode ,</i>	フォーム自動切換え指定
int	<i>formlinkitem ,</i>	フォーム自動切換え指定項目番号
int	<i>keybreak ,</i>	キーブレイク&改ページ指定
int	<i>startpage ,</i>	開始ページ
int	<i>endpage ,</i>	終了ページ
int	<i>magnification ,</i>	拡大率
int	<i>numpage ,</i>	部数
int	<i>startlabel ,</i>	スタートラベル位置
int	<i>encryption ,</i>	PDF暗号化レベル
LPSTR	<i>owner ,</i>	PDFオーナーパスワード
LPSTR	<i>user ,</i>	PDFユーザーパスワード
int	<i>allowprint ,</i>	PDF印刷許可
int	<i>allowchange ,</i>	PDF変更許可
int	<i>allowcopy ,</i>	PDFコピー許可
int	<i>vsign ,</i>	PDF電子署名指定

LPSTR	<i>vsignpass ,</i>	PDFプライベートキーのパスワード
LPSTR	<i>vsignPKCS12 ,</i>	PDF PKCS12形式の証明書ファイル名
LPSTR	<i>vsignX509i ,</i>	PDF X509形式の証明書ファイル名
LPSTR	<i>vsignX509 ,</i>	PDFベリサインの上位証明書ファイル名
LPSTR	<i>pdftitle ,</i>	PDFファイルタイトル名
int	<i>reserved1 ,</i>	予約済
int	<i>reserved2 ,</i>	予約済
int	<i>reserved3 ,</i>	予約済
LPSTR	<i>reserved1 ,</i>	予約済
LPSTR	<i>reserved2 ,</i>	予約済
LPSTR	<i>Reserveds3</i>	予約済

)

引数

<i>jobno</i>	ジョブ番号が返ります。 1つのサーバー内で一意な番号となります。
<i>jobname</i>	ジョブ名を指定します。 Shift-JISで63バイト以内です。
<i>username</i>	ユーザー名を任意で指定します。 Shift-JISで31バイト以内です。
<i>computername</i>	コンピューター名を任意で指定します。 Shift-JISで31バイト以内です。
<i>outputname</i>	出力先名を指定します。 印刷をおこなう場合、プリンター名を指定します。Shift-JISで63バイト以内です。PDFファイルを作成する場合、“PDF”を指定します。
<i>outputoption</i>	出力オプション名を指定します。 印刷をおこなう場合、プリンターオプション名(“T1” ~ “T20”)を指定します。作成されるPDFファイル名を指定します。
<i>jobcontrol</i>	ジョブ登録後の処理を指定します。 0: 印刷 1: 印刷後削除(エラー時保持) 2: 印刷後削除(エラー時保持しない) 3: 保留

<i>watchlevel</i>	<p>ジョブを監視する期間を指定します。現在0のみサポートされています。</p> <p>0: ジョブ登録まで監視します。</p>
<i>timeout</i>	<p>監視タイムアウトの時間をミリ秒で指定します。</p>
<i>datatype</i>	<p>印刷データの形式を指定します。</p> <p>0: タブ区切り(タイトル行なし) - 文字列</p> <p>1: CSV(タイトル行あり) - ファイル</p> <p>2: CSV(タイトル行なし) - ファイル</p> <p>3: タブ区切り(タイトル行あり) - ファイル</p> <p>4: タブ区切り(タイトル行なし) - ファイル</p>
<i>data</i>	<p>印刷データを指定します。</p> <p>datatype = 0の時: タブ区切り形式の文字列変数を指定します。</p> <p>datatype > 0の時: ファイル名を指定します。</p>
<i>defname</i>	<p>データ定義ファイル名(.def)を指定します。</p> <p>Shift-JISで127バイト以内のフルパスで指定します。</p>
<i>selectform</i>	<p>印刷するフォーム番号を指定します。</p> <p>0 ~ (フォーム数-1)の範囲で指定します。</p> <p>formsetmode = 1の場合、無視されます。</p>
<i>defprinter</i>	<p>将来のために予約されています。</p>
<i>formsetmode</i>	<p>フォームの自動切換えを指定します。</p> <p>0: 自動切換えをおこないません。</p> <p>1: データの内容により、印刷するフォームの自動切換えをおこないません。formlinkitemで指定された項目のデータ内容が、“PrintPro for Designer”で、フォーム保管時に指定できるコードの内容と一致するフォームが選択されます。</p> <p>2: 1ページ目はselectformで指定されたフォームで印刷し、2ページ目以降は、selectform+1のフォームで印刷されます。改ページ指定により改ページがおこなわれると、1ページ目から印刷をおこないません。連番は、改ページ指定による改ページ後は1に戻ります。</p> <p>3: 1ページ目はselectformで指定されたフォームで印刷し、2ページ目以降は、selectform+1のフォームで印刷されます。改ページ指定により改ページがおこなわれると、1ページ目から印刷をおこないません。連番は、改ページ指定による改ページ後も続きます。</p> <p>-11: formsetmode=1と同じ動作をおこないますが、フォームが見つからない場合は、selectformで指定されたフォームを使用します。</p>
<i>formlinkitem</i>	<p>自動フォーム指定用項目の番号(0 ~ n)を指定します。</p> <p>formsetmode=1の場合に、自動フォーム選択のおこなうための判定に使用する項目を指定します。</p>

<i>keybreak</i>	<p>キーブレイクおよび改ページ条件を指定します。</p> <p>-1: 明細行数を超えると改ページします。キーブレイクは発生しません。</p> <p>0: 1レコードごとに改ページします。キーブレイクは発生しません。</p> <p>1～項目数: この値を項目番号として、その項目の内容が前のレコードの内容と不一致になると改ページがおこなわれます。</p>
<i>startpage</i>	<p>印刷を開始するページを指定します。(1～)</p> <p>0を指定すると全ページが印刷されます。</p>
<i>endpage</i>	<p>印刷を終了するページを指定します。</p> <p>endpage >= startpageとしてください。</p>
<i>magnification</i>	<p>印刷倍率を指定します。</p> <p>10～400%の範囲で指定します。</p>
<i>numpage</i>	<p>印刷部数を指定します。(1～)</p>
<i>startlabel</i>	<p>ラベル印刷をするスタート位置(1～n枚目)を指定します。</p> <p>ラベルフォームの場合に、1ページ内のどのラベルから印刷を開始するかを指定します。左上のラベルを1として、左から右、上から下に数えます。</p>
<i>encryption</i>	<p>PDFファイルの暗号化レベルを指定します。</p> <p>0: 暗号化なし</p> <p>1: 40bit</p> <p>2: 128bit</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>
<i>owner</i>	<p>PDFファイルのオーナーパスワードを指定します。</p> <p>半角の1～0、A～Z、a～zが使用可能で、20文字以内で指定可能です。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>
<i>user</i>	<p>PDFファイルのユーザーパスワードを指定します。</p> <p>半角の1～0、A～Z、a～zが使用可能で、20文字以内で指定可能です。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>
<i>allowprint</i>	<p>PDFファイルの印刷許可/不許可を指定します。</p> <p>0: 許可</p> <p>1: 不許可</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>

<i>allowchange</i>	<p>PDFファイルの変更許可/不許可を指定します。</p> <p>0: 許可 1: 不許可</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>
<i>allowcopy</i>	<p>PDFファイルのコピー許可/不許可を指定します。</p> <p>0: 許可 1: 不許可</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>
<i>vsign</i>	<p>PDFファイルに電子署名するか否かを指定します。</p> <p>0: 電子署名しない 1: 電子署名する</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。電子署名については、同製品の“電子署名用証明書について.doc”を参照してください。</p>
<i>vsignpass</i>	<p>プライベートキーのパスワードを指定します。</p> <p><i>vsign</i> = 1の場合のみ有効で、電子署名に使用する証明書のプライベートキーのパスワードを入力します。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。電子署名については、同製品の“電子署名用証明書について.doc”を参照してください。</p>
<i>vsignPKCS12</i>	<p>PKCS12形式の証明書ファイル名を指定します。</p> <p><i>vsign</i> = 1の場合のみ有効で、電子署名に使用するプライベートキーを含むPKCS12形式の証明書のファイル名を指定します。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。電子署名については、同製品の“電子署名用証明書について.doc”を参照してください。</p>
<i>vsignX509i</i>	<p>X509形式の証明書ファイル名を指定します。</p> <p><i>vsign</i> = 1の場合のみ有効で、電子署名に使用するプライベートキーを含まないX509形式の証明書のファイル名を指定します。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。電子署名については、同製品の“電子署名用証明書について.doc”を参照してください。</p>
<i>vsignX509</i>	<p>上位の証明書ファイル名を指定します。</p> <p><i>vsign</i> = 1の場合のみ有効で、電子署名に使用する上位の証明書のファイル名を指定します。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。電子署名については、同製品の“電子署名用証明書について.doc”を参照してください。</p>
<i>pdftitle</i>	<p>PDF文書のタイトルを指定します。</p> <p>“PrintPro for PDF Option” (別売)と連携させて動作させ、PDFファイルとして出力する場合に使用します。</p>

<i>reserved1</i>	予約パラメーターです。
<i>reserved2</i>	予約パラメーターです。
<i>reserved3</i>	予約パラメーターです。
<i>reserved1</i>	予約パラメーターです。
<i>reserved2</i>	予約パラメーターです。
<i>reserved3</i>	予約パラメーターです。

戻り値

int型(4バイト)の値が戻ります。

関数処理が成功すると0以上の値が戻ります。

関数処理が失敗すると負の値が戻ります。

関数が失敗した場合、この戻り値を構成する各バイトを

(上位)[b4] [b3] [b2] [b1](下位)

とした場合、各バイト別に、以下の情報を示す値が設定されます。

[b4]:

エラー時、常に0x80です。

[b3]: ジョブステータス

値	内容
0x00 (0)	印刷完了
0x03 (3)	印刷保留
0x06 (6)	デバイスエラー
0x07 (7)	出力指定エラー
0x08 (8)	システムエラー
0x09 (9)	削除

[b2]: デバイステータス

値	内容
0x00 (0)	印刷可能
0x01 (1)	印刷不可
0x02 (2)	用紙切れ
0x03 (3)	用紙ジャム
0x04 (4)	カバーオープン
0x05 (5)	トナーなし
0x06 (6)	ウォーミングアップ中
0x07 (7)	監視タイムアウト
0x08 (8)	エラー
0x09 (9)	電源オフ
0x0A (10)	終了監視イベントが作成できません
0x10 (16)	監視DLLロードエラーが発生しました
0x11 (17)	監視エラーが発生しました

[b1]: 印刷ステータス

値	内容
0x00 (0)	正常終了しました
0x01 (1)	データ定義ファイルがありません
0x02 (2)	印刷データがありません
0x03 (3)	出力先指定エラー
0x06 (6)	ジョブ登録エラー
0x07 (7)	データがスプールできません
0x08 (8)	データが削除できません
0x09 (9)	コントローラーがスプールできません
0x0C (12)	これ以上ジョブ操作が登録できません
0x10 (16)	ジョブ操作待ち行列にアクセスできません
0x18 (24)	ジョブデータが読み込めません

その他

なし。

PrintPro Server 2.0 ユーザーズマニュアル

第1版(JBAT) 2014年04月08日

発行 JBアドバンスト・テクノロジー株式会社

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。

<http://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JBアドバンスト・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で複写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります

